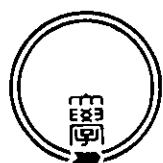


令和3年度

シラバス  
＜履修ガイド＞

幼児保育学科



松本短期大学

# 目次

I. 大学・学科暦	2
II. 履修科目	4
III. 講義概要<シラバス>	
1. 1年生	13
2. 2年生	55
IV. 教員担当科目一覧	93

I. 令和3年度(2021年)大学・学科暦

4月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	(29)	30	
	4/1 学年開始 4/2 入学式 4/5~7 前期オリエンテーション 4/8 前期授業開始 4/17 健康と運動Ⅱレクゲーム体験(2年生)						

7月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	(22)	(23)	24
	25	26	27	28	29	30	31
	7/17 オープンキャンパス						

5月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	(3)	(4)	(5)	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
5/22 健康と運動Ⅱレクゲーム学修(2年生)							

8月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	(8)	(9)	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
	8/3~5 前期期末試験 8/6 オープンキャンパス 8/6~9/22 夏季休業 8/17~31 保育実習Ⅰ(2年生)						

6月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
	6/7~18 教育実習(2年生) 6/19 オープンキャンパス						

9月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	(20)	21	22	(23)	24	25
	26	27	28	29	30		
	9/24 後期オリエンテーション 9/25 入試のため入校禁止(午前) 9/27 後期授業開始						

○ は休日

10月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
10/8~10 おとぎ祭 10/11 おとぎ祭片付け(午前中休講) 10/23 入試のため入校禁止							

1月	日	月	火	水	木	金	土
							①
	2	3	4	5	6	7	8
	9	⑩	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
1/5 授業再開 1/19 卒業研究発表会							

11月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	②	23	24	25	26	27
	28	29	30				
	11/3 オレンジリボンたすきリレー(1年生) 11/1~16 保育実習Ⅱ・Ⅲ(2年生) 11/4~17 教育実習(1年生) 11/18 入試のため入校禁止						

2月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	⑪	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	⑬	24	25	26
	27	28					
	2/1 入試のため入校禁止 2/2~4 後期期末試験 2/7~22 保育実習Ⅰ(1年生)						

12月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
	12/10 入試のため入校禁止 12/27~1/4 冬季休業						

3月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	⑭	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
	3/1 入試のため入校禁止 3/15 卒業式 3/25 春のオープンキャンパス 3/31 学年終了						

## Ⅱ. 令和3年度 履修科目

1年生

幼児保育学科の授業カリキュラムは、以下に示した学則の別表第1にしたがって行われる。表の網掛け部分が1年生に組まれている授業科目である。

別表第1

幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考		
			開設単位	必修	選択				
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	合計10単位以上	
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15		
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30		
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30		教免必修
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30		教免必修
			講義	1	1		15		
	ひとの生活を考える	キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		30		
		地域交流実践	演習	1		1	30		
	学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2		30		教免必修
			情報処理演習	演習	2		2		30
暮らしの中の数学			講義	2		2	30		
キャリア形成Ⅰ			講義	1	1		15		
小 計				17	6	11	285		
専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30			
		講義	2	2		30			
		子ども家庭福祉	講義	2		2	30	保育士必修	
		社会福祉	講義	2		2	30	保育士必修	
		子ども家庭支援論	講義	2		2	30	保育士必修	
		社会的養護Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修	
		保育者論	講義	2	2		30		
		保育・教育の心理学	講義	2	2		30		
		子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30	保育士必修	
		子どもの理解と援助	演習	2	2		30		
		子どもの保健	講義	2		2	30	保育士必修	
		子どもの食と栄養	演習	2		2	30	保育士必修	
		教育課程の編成と評価	講義	2	2		30		
		保育内容総論	演習	1	1		15		
		保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	演習	2	2		30		
		保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	演習	2	2		30		
		保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	演習	1	1		15		
		子どもと音楽表現	演習	1	1		15		
		子どもと造形表現	演習	1	1		15		
		子どもと健康	演習	1	1		15		
子どもと環境	演習	1	1		15				
子どもと人間関係	演習	1	1		15				
子どもと身体表現	演習	1	1		15				

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修
	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修	
保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修	
保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修	
保育実習Ⅱ	実習	2		2	90		
保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15		
保育実習Ⅲ	実習	2		2	90		
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	2		30		
			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小計			4	4		120	
合計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 選択必修を含む必修42単位 選択20単位 計62単位  
 内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位  
 専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

2年生

幼児保育学科の授業カリキュラムは、以下に示した学則の別表第2にしたがって行われる。表の網掛け部分が2年生に組まれている授業科目である。

別表第2

幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考	
			開設単位	必修	選択			
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	教免必修 合計10単位以上
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15	
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30	
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30	
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30	
	ひとの生活を考える	キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		15	
		地域交流実践	演習	1		1	30	
	学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2		30	
		情報処理演習	演習	2		2	30	
		暮らしの中の数学	講義	2		2	30	
キャリア形成Ⅰ		講義	1	1		15		
小計			17	6	11	285		
専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30	保育士必修	
	教育原理	講義	2	2		30		
	子ども家庭福祉	講義	2		2	30		
	社会福祉	講義	2		2	30		
	子ども家庭支援論	講義	2		2	30		
	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	30		
	保育者論	講義	2	2		30		
	保育・教育の心理学	講義	2	2		30		
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30		
	子どもの理解と援助	演習	2	2		30		
	子どもの保健	講義	2		2	30		
	子どもの食と栄養	演習	2		2	30		
	教育課程の編成と評価	講義	2	2		30		
	保育内容総論	演習	1	1		15		
	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	演習	2	2		30		
	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	演習	2	2		30		
	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	演習	1	1		15		
	子どもと音楽表現	演習	1	1		15		
	子どもと造形表現	演習	1	1		15		
	子どもと健康	演習	1	1		15		
子どもと環境	演習	1	1		15			
子どもと人間関係	演習	1	1		15			
子どもと身体表現	演習	1	1		15			

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修
	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修	
保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修	
保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修	
保育実習Ⅱ	実習	2		2	90		
保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15		
保育実習Ⅲ	実習	2		2	90		
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	2		30		
			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小計			4	4		120	
合計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 選択必修を含む必修42単位 選択20単位 計62単位

内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位

専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

※保育士：必修及び選択必修を除く、保育士選択科目から2単位以上を選択

### Ⅲ. 講義概要〈シラバス〉

1. 幼 児 保 育 学 科  
＜1年生開講科目＞

令和3年度 幼児保育学科1年生

授業科目の区分		No.	科目名	担当教員	開設時期	
					前期	後期
教養基礎科目	ひとの可能性を考える	1	こころの科学	山藤		○
	ひとの権利を考える	2	暮らしの中の憲法	金枝	○	
	ひとの生活を考える	3	キャリア形成Ⅱ	米窪		○
	学修の基礎力を培う	4	英語表現	黒澤	○	
		5	情報処理演習	高下	○	
		6	暮らしの中の数学	伊東		○
		7	キャリア形成Ⅰ	米窪	○	
専門教育科目	8	保育原理	生田	○		
	9	教育原理	鈴木	○		
	10	子ども家庭福祉	松澤		○	
	11	社会福祉	松澤	○		
	12	社会的養護Ⅰ	松澤	○		
	13	保育者論	鈴木		○	
	14	保育・教育の心理学	内藤	○		
	15	子どもの理解と援助	内藤		○	
	16	教育課程の編成と評価	鈴木	○		
	17	保育内容 総論	山田(裕)		○	
	18	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	山田(真)・白金・米窪		○	
	19	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	山藤		○	
	20	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	山田(裕)	○		
	21	子どもと音楽表現	山田(真)	○		
	22	子どもと健康	白金	○		
	23	子どもと環境	山藤	○		
	24	子どもと人間関係	山藤		○	
	25	子どもと身体表現	山田(真)	○		
	26	乳児保育Ⅰ	生田		○	
	27	社会的養護Ⅱ	松澤		○	
	28	子どもの音楽Ⅰ	山田(真)、齊藤、高倉、山口、飯田、鎌倉、野田、輪湖	○		
	29	子どもと運動遊び	白金	○		
	30	生涯スポーツⅠ	白金		○	
	31	幼児教育の方法	鈴木		○	
	32	教育実習指導	山藤		○	
	33	教育実習	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)		○	
	34	保育実習指導Ⅰ	生田、松澤		○	
	35	保育実習Ⅰ	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)		○	
	研究演習	36	基礎ゼミナール	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)	○	○

※下線は主担当

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
1	こころの科学	2	30	選択	講義	1年	後期	山藤 宏子	
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験および、NPO法人において社会的養護、あるいは震災避難など特別な場面で育つ児童の支援活動を行った経験を踏まえ、ひとの発達を心の側面から考える講義を展開する。							
講義目的		子どもの心の理解と支援に関わる心理学の基本的知識を学ぶ。							
到達目標		1) 子ども理解に役立つ心理学の知見や、ひとの心の仕組み・機能に関する基本的知識を理解し、説明できる。 2) 子どもを対象とした心理臨床の基礎知識を理解し、説明できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション 心理学とは	授業の内容やルールを確認する。心理学の学問体系の概要を理解する。			シラバスを読む。授業の復習をする。			
	2	胎児期から始まる母子関係	胎児期、新生児期の脳・感覚器官の機能と発達について理解する。			事前学修は、教員から指示された課題に取り組む。 事後学修は、授業の復習を行う。			
	3	新生児期のコミュニケーション	新生児の生存戦略とアタッチメントについて学ぶ。						
	4	幼児期に育つ心	自我の芽生から自立へと育つ幼児期の子どもの心を理解する。						
	5	社会性と道徳観	社会が広がるとともに求められる道徳観について学ぶ。						
	6	青年期以降の心の育ち	青年期とそれ以降の心の発達について学ぶ。						
	7	心に働きかける指導	保育現場の事例から心理学実験を学ぶ。						
	8	生涯発達理論の理解 (1)	先行研究から発達についての知識を学ぶ。						
	9	生涯発達理論の理解 (2)	文献を通して発達についての理解を深める。						
	10	生涯発達理論の理解 (3)	事例から保育現場における発達について学ぶ。						
	11	生涯発達理論の理解 (4)	保育現場における発達についての理解を深める。						
	12	生涯発達理論の理解 (5)	自己の専門性について明確にする。						
	13	生涯発達理論の理解 (6)	専門性についての知識を広げる。						
	14	生涯発達理論の理解 (7)	生涯発達理論に基づき広げた知識を共有する。						
	15	生涯発達理論の理解 (8)	討議を通して、生涯発達についての理解を深める。						
16	定期試験	筆記試験							
DP	学修方法		テキスト		参考書			教員からのメッセージ	
4	講義には配布資料とスライドを用います。テーマに応じて、グループワーク等の体験学習を行います。		なし		なし		子どもの様々な姿に気づき、保育の専門性を向上させましょう		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分 (%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
定期試験		60	筆記						
課題提出		40	定期課題の提出と内容			受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
2	暮らしの中の憲法	2	30	選択 (免必)	講義	1年	前期	金枝 真佐尋	
実務経験と授業科目との関連性		弁護士としての経験を踏まえ、憲法における人権の基本的な考え方について、子どもと関わる職務に必要な人権感覚を身に付けられるような講義を展開する。							
講義目的		私達が生きてゆくうえで憲法はどのような役割を果たしているかを理解する。							
到達目標		1) 基本的人権の重要性を説明できる。 2) 憲法がどのような場面でどのような意義を持つのか、具体的に考えられる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	憲法は何故大事か 憲法は権力をしぼる	ガイダンス、講義の進め方 立憲主義とは何か(憲法って意外と大事)			憲法の前文を読んでおく			
	2	子どもの人権も憲法で保障されている	子どもの人権と児童虐待の防止について			教科書P.3~12			
	3	個人の人権はどうして大切なのか	プライバシー権とは何か自己決定する権利について			教科書P.25~44			
	4	平等とはどういうことか 人の命に差があるか	男女の法の下での平等、尊属殺人と重罰について			教科書P.45~68			
	5	宗教と個人の自由表現の自由 でポルノが問題になるとは	信教の自由の意味、表現の自由とポルノについて			教科書P.69~88			
	6	教科書を自由に作れるか	教科書と出版の自由、検定問題について			教科書P.122~130			
	7	健康で文化的な生活 何でも自由に営業できるか	生存権とは何か営業規制と営業の自由について			教科書P.99~119			
	8	国は人の命を奪えるか	死刑制度と憲法について			教科書P.131~140			
	9	平和に生きるために	憲法第9条と平和主義について			教科書P.153~162			
	10	国民主権と天皇制の関係	憲法上天皇とはどのような役割か			教科書P.142~152			
	11	法律が憲法に反したらどう するか	司法審査制と憲法について			教科書P.207~215			
	12	なぜ2院制か 国会は何をすところ	衆議院と参議院について			教科書P.164~182			
	13	内閣と総理大臣と議会の関係	議院内閣制とは何か 大統領制とはどのように違うか			教科書P.184~194			
	14	地方のことは地方で決める 憲法は簡単に変えられるか	地方自治の本旨とは何か 憲法改正条項について			教科書P.217~257			
	15	裁判はどのように行われるか	裁判の流れを学び、模擬裁判を体験する			資料(裁判のシナリオ)を読んでおく			
16	定期試験	筆記試験			これまでの復習をする				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	ときに学生に質問しながら、テキストを中心に講義を行う。		初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門」(有斐閣アルマ)		なし		憲法を勉強して自分で考えることが重要です。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし	
定期試験		100							
模擬裁判出演		+20	積極性を評価し上乘せ(但し100%を超えません)			受講前に学習すること			
受講態度		-X	目に余る態度は減点						
						教科書の該当項目について、よく読んでおいてください。			

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
3	キャリア形成Ⅱ	1	15	必修	講義	1年	後期	米窪 洋介
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		自らのキャリアについて再考し、実現したい将来像について考える機会とする。自己の能力やその活かし方について考え、目的意識を持って今後の大学生活を送ろうとする姿勢を育成する。						
到達目標		現在の雇用状況や労働環境等と具体的な就職活動の流れを掴み、思い描いてきたキャリアデザインを再考しながら、自分の能力を発揮するためにどのような知識や能力を身につければ良いのかを考え、実践する力を身に付け、実行できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	授業の目的、行い方、ルール等を理解する			シラバスを読む		
	2	キャリアをデザインするとは	キャリアデザインの必要性とその考え方を理解し、求められる能力について考える。			事前・事後学修用の資料を読む		
	3	社会状況について	雇用状況や労働環境についての理解を深め、就職についてのイメージを持つ。			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	4	自己理解について	今までの自分を振り返り、現状と今後の課題等を整理する。			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	5	ルールとマナーについて	社会人としての基本的なマナーと就職活動等における注意点について学ぶ。			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	6	自己表現について①	自身の性格や特徴を見つめ直し、自分を他者にアピールする方法を学ぶ。			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	7	自己表現について②	適切な言葉を使い、自分自身を他者に伝える方法を学ぶ。			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	8	行動計画とまとめ	学んできたことを振り返り、これからの自分について考え、行動計画を立てる。			振り返り、行動計画を見直す		
	9	定期試験	筆記試験			試験に向けて事前学修に取り組む		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	配布資料をもとに講義や予復習を行います		なし		なし		主体的・継続的な学習をしていきましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準			水曜日3時限		なし
定期試験		50	筆記試験			受講前に学習すること		
レポート		50	記述内容					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
4	英語表現	2	30	必修	演習	1年	前期	黒澤 優子	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		保育を学ぶ学生のための教材を用い、英語力を高める。							
到達目標		英語の基礎力を養い、保育現場で使われるさまざまな英語表現を修得する。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	本授業の目的と進め方 テキスト第1課①	授業の目的と方法を理解する。自己紹介の表現を学ぶ。			テキスト p.6~8 を予習			
	2	テキスト第1課②	実習の打合せに関する英語表現を学ぶ。			テキスト p.9~11 を予習			
	3	テキスト第2課①	保育園で身の回りにある物や遊具の表現を学ぶ。			テキスト p.12~ 14を予習			
	4	テキスト第2課②	園児との会話、実習の初日に関する表現を修得する。			テキスト p.15~ 17を予習			
	5	テキスト第3課①	店の名前を英語で言える。お出かけの表現を学ぶ。			テキスト p.18~ 20を予習			
	6	テキスト第3課②	「お出かけ」を題材に前置詞を覚える。			テキスト p.21~ 23を予習			
	7	1~3課のまとめと復習	前期前半の学習をふり返る。			テキスト1~3課を 読み返しておく。			
	8	テキスト第4課①	「水遊び」をテーマに様々な表現を学ぶ。			テキスト p.24~ 26を予習			
	9	テキスト第4課②	「水遊び」をテーマに動詞の-ing形を復習する。			テキスト p.27~ 29を予習			
	10	テキスト第5課①	ホットケーキの作り方を英語で表現できる。			テキスト p.30~ 32を予習			
	11	テキスト第5課②	「ホットケーキの日」の会話・日誌を題材に動詞・形容詞を学ぶ。			テキスト p.33~ 35を予習			
	12	テキスト第6課①	絵本の読み聞かせをテーマに関連表現を習得する。			テキスト p.36~ 38を予習			
	13	テキスト第6課②	絵本の読み聞かせをテーマに冠詞の用法を身につける。			テキスト p.39~ 41を予習			
	14	4~6課のまとめと復習	前期後半の学習をふり返る。			テキスト4~6課を 読み返しておく。			
	15	まとめ	前期の授業をふり返る。			1~6課のプリントの 内容をざっと見直し ておく。			
16	定期試験	期末試験として、全員が筆記試験を受ける。			テキスト・プリン ト第1~6課をよく 復習する。				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	テキストを中心に授業を進める。		赤松直子「Children's Garden」(成美堂)		なし		保育園での生活を題材にした保育科学生のための英語テキストを用います。興味を持って学んでいただければと思います。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		80		筆記試験					
平常点と課題		20		授業参加度、発表と課題の内容					
						受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
5	情報処理演習	2	30	選択 (免必)	演習	1年	前期	高下 梓
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		パソコンにおける基本的なアプリケーションの操作を学び、幼児保育施設で通用するスキルを習得する。						
到達目標		1. インターネット利用のマナーと倫理を理解できる。 2. Word・Excel・PowerPointの基本操作を行うことができる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション インターネットの利用マナー	パソコンの基本操作と、インターネット利用のマナーについて確認する。				初回の主題の確認	
	2	タイピングの確認	パソコンの入力・操作に必要なタイピングを練習する。				タイピングの練習	
	3	情報モラル	日常生活のなかで使用するツールや、メール送信・課題提出などにおける留意点を学ぶ。				タイピングの練習	
	4	情報セキュリティ対策	パソコンやインターネットの利用にあたって必要な情報管理についての留意点を学ぶ。				タイピングの練習	
	5	キーボードの確認	パソコンのキーボードの配置や、機能を確認する。				タイピングの練習	
	6	インターネット検索	インターネットを用いて知りたい情報を得る方法を学ぶ。論文検索の方法を学ぶ。				タイピングの練習	
	7	Word2010の基本操作	Microsoft Wordのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。				タイピングの練習	
	8	Word2010による文書作成	Microsoft Wordを用いて、様々な機能を使いながら文書作成を行う。				タイピングの練習	
	9	Word2010によるレポート作成	文献情報をインターネットで調べ、Microsoft Wordの機能を用いてレポートを作成する。				Wordによる レポート作成	
	10	Excel2010の基本操作	Microsoft Excelのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。				タイピングの練習	
	11	Excel2010による図表の作成	Microsoft Wordを用いて、様々な機能を使いながら図表の作成を行う。				タイピングの練習	
	12	PowerPoint2010の基本操作	Microsoft PowerPointのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。				タイピングの練習	
	13	PowerPoint2010による資料作成	Microsoft PowerPointを用いて、様々な機能を使いながらプレゼンテーション資料の作成を行う。				プレゼンテーション 資料の準備	
	14	PowerPoint2010によるプレゼンテーション作成	Microsoft PowerPointを用いて、プレゼンテーション資料を完成させ、発表の準備をする。				プレゼンテーション 資料の準備	
	15	プレゼンテーションの発表	Microsoft PowerPointで作成したプレゼンテーション資料を発表し、様々な作成例を学び合う。				プレゼンテーション の準備	
	16	定期試験	選択式筆記試験、タイピングを含む課題作成				全体の復習	
DP	学修方法		テキスト		参考書	教員からのメッセージ		
1	テキストや資料を基に知識を学び、パソコンを操作して実体験を重ねます。		「情報リテラシー入門編Windows10/Office2019対応」(FOM出版)		なし	パソコンの基本知識・スキルを身につけて、学習や就職に活かしましょう。		
成績評価方法					オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜5時限	なし		
定期試験		50	筆記および課題作成試験					
課題提出		30	提出された課題の内容					
受講態度		20	積極的な授業参加					
					受講前に学習すること			
					受講前の学習は必要ありませんが、データ保存用のUSBメモリを用意してください。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
6	暮らしの中の数学	2	30	選択	講義	1年	後期	伊東 和広
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		数学の様々な分野への応用を理解し、生活の中でそれを活用できるようにする。						
到達目標		身の回りにある数学に気付き、数学的手法や思考法を活用していくことができる。そういう姿勢及び力を養うことができる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1 数の世界と計算	・物の大きさを実感する ・計算法則を理解し計算の基礎を身につける			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	2 算数で基礎固め	・割合、金額、速さ、濃度などの計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	3 ものの集まり	・集合の考え方がわかる ・包除原理を使った計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	4 数量を扱う	・数量を文字式で表す ・方程式の解法の確認			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	5 方程式の利用	・方程式を用いた数量の処理ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	6 スマートに数える	・樹形図を用いて数えられる ・順列、組合せの計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	7 身近な確率	・確率の考え方がわかる ・確率の計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	8 確率で予想する	・いろいろな確率の計算ができる ・確率を利用する			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	9 平均点の嘘	・平均点などの統計の数量の計算ができる ・数値に惑わされない統計の見方ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	10 データをグラフで表現する	・データをグラフで表現できる ・データを比較できる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	11 論理的思考の基礎	・命題の真偽の判定ができる ・命題を扱える			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	12 論理的に思考する	・身近な事柄を論理的に捉えられる ・いろいろな証明方法を理解する			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	13 ピタゴラスの定理	・定理の簡単な利用ができる ・平面図形、空間図形の求積ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	14 図形を扱う	・図形の様々な扱い方ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	15 整数の話	・n進数を扱える ・素数にふれ、コンピュータへの応用を知る			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	16 定期試験	・筆記試験			扱ってきた内容、 問題の復習			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	・公務員試験問題やSPI問題なども扱いながら講義を行う。 ・講義時間内の問題への取り組みも予定。 ・レポートも課す。		なし レジュメを作成する		公務員試験・SPI問題集 (授業時に提示)		数学には「根性」も必要です。その先に数学のおもしろさが見えてきます。一緒に頑張りましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		45	筆記試験					
レポート (10回程度)		30	内容		受講前に学習すること			
講義時間内の問題への取り組み		20	内容及び積極性					
受講態度		5	意欲		これまでの数学の復習			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
7	キャリア形成 I	1	15	必修	講義	1年	前期	米窪 洋介

実務経験と授業科目との関連性

講義目的  
 1) 学修に必要な基礎力を習得する。  
 2) 実習生・社会人として求められる基本的マナーを身につける。  
 3) 自分のキャリアについて考え、自らの将来のキャリアイメージを得る。

到達目標  
 1) 学習・実習への取り組み、就職活動、社会人に必要な基本的知識・技能を理解している。  
 2) 書き言葉・話し言葉、レポートの書き方、手紙の書き方、電話のかけ方、基本的マナー等の基本的知識を理解し、実行できる。

教育内容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション 基本マナー①	授業の内容・ルールを確認する。学生生活についての疑問点を確認する。自己紹介・挨拶に関する基本マナーを理解する。	シラバスを読む。	
	2	基本マナー②	保育学生としてのマナーや守秘義務について理解する。		
	3	学修の基礎力を高める①	学修の基礎力のうち、特に言語面や計算面について、自分の基礎力の長所と課題を理解する。		
	4	学修の基礎力を高める②	実習記録の記入例に触れながら、書き言葉の記入の仕方や、保育の頻出用語を理解する。		
	5	保育の仕事	保育に関わる職業は様々であることを知り、自分自身のキャリアについて考える。	事前学修は、前回の授業内容を復習する。 事後学修は、指示された課題に取り組む。	
	6	話し言葉	書き言葉と話し言葉の違いを確認し、実習生・社会人としての話し言葉について理解する。		
	7	手紙の書き方	葉書や便箋の使い方、手紙・封筒の書き方を理解する。		
	8	レポートの書き方	原稿用紙の使い方、レポートの体裁を確認し、レポート提出の基本事項を理解する。		
9	定期試験	筆記試験（選択式・記述式）	これまでの授業内容を復習する。		

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
1	テキストと配布資料をもとに講義や予習・復習を行います。テーマに応じて体験学習に取り組みます。	長島和代編「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉 改訂版」(わかば社)	なし	学生・社会人として必要な知識・技術を積極的に身につけましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
定期試験	50	筆記試験		
課題提出	30	定期的な課題提出		
授業への参加状況	20	課題・体験学習等への取り組み	なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
8	保育原理	2	30	必修	講義	1年	前期	生田 恵津子	
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験を踏まえ、保育の意義、歴史的変遷、現状と課題、保育者の役割について講義を行う。							
講義目的		1、保育の意義や思想、歴史の基本について理解する 2、保育の現状や保育政策について理解し、考察する。 3、保育所保育指針の基本について理解する。							
到達目標		1、保育の歴史や制度、保育思想などを理解し、保育の現状と課題について考えることができる。 2、「保育所保育指針」における「保育の基本」について理解し、子どもを理解するための基礎的な知識を習得し、説明することができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	ガイダンス	保育を学ぶ意味について理解する			シラバスを読んでおく			
	2	保育の歴史	保育の誕生から、今日までを学ぶ			教科書」の該当部分を読んでおく			
	3	法的に規定される保育	学校教育法・児童福祉法など、子どもに関わる法令を学ぶ			子どもに関わる法令を調べてくる			
	4	子ども理解①	子ども理解とは何かを知る			配布資料を読んでおく			
	5	子ども理解②	子ども理解から始まるあそびの援助を学ぶ			配布資料を読んでおく			
	6	子ども理解③	事例から子ども理解の方法を学ぶ			配布資料を読んでおく			
	7	保育所保育指針①	保育所保育に関する基本原則を理解する			今回の授業をまとめる			
	8	保育所保育指針②	養護と教育の関係について理解する			今回の授業をまとめる			
	9	保育所保育指針③	保育の計画について知る			今回の授業をまとめる			
	10	保育所保育指針④	乳児保育のねらい及び内容を理解する			今回の授業をまとめる			
	11	保育所保育指針⑤	1歳以上3歳未満児の保育のねらい及び内容を理解する			今回の授業をまとめる			
	12	保育所保育指針⑥	3歳以上児の保育のねらい及び内容を理解する			今回の授業をまとめる			
	13	保育所保育指針⑦	子育て支援について理解する			今回の授業をまとめる			
	14	指導計画の実際①	主活動の指導計画の立て方を理解する			次回に向けて事案を立てる			
	15	指導計画の実際②	指導計画に基づいて保育を展開することを学ぶ			ここまでの授業をまとめておく			
	16	定期試験	筆記試験			これまでの学習内容を復習して臨む			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	授業の形式は講義であるが、主題によってグループでの取り組みも行う。		汐見稔幸他著「保育原理」(ミネルヴァ書房)、汐見稔幸他監修「平成30年施行」保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		なし		保育の根幹を学ぶ科目です。楽しみながら、しっかり学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
定期試験		60	筆記試験						
課題提出		40	課題の提出状況と内容						
						受講前に学習すること			
						なし			

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
9	教育原理	2	30	必修	講義	1年	前期	鈴木 美枝子

実務経験と授業科目との関連性 学校現場経験を踏まえ、教育の意義、歴史的変遷、教育制度、小学校及び地域との連携について講義を行う。

講義目的 教育の意義や目的、教育の思想や歴史的変遷、教育制度や行政の仕組み、国内外の教育制度、教育の現状と課題等、教育についての基礎的事項を理解する。

到達目標 1) 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性、乳幼児期の教育の特性を理解できる。  
2) 教育の思想と歴史的変遷、教育法規や行政の基礎と国内外の教育制度を理解できる。  
3) 教育の実践と生涯学習社会の教育の現場と課題を理解できる。

	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
教育 内 容	1 教育の意義と目的	教育の意義と目的について学ぶ（授業のオリエンテーションもあわせて行う）	事前にシラバスを 読んでおく	
	2 教育の歴史（1）	西洋の教育の歴史（1） 近代公教育制度の変遷 について社会的背景との関連から学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	3 教育の歴史（2）	西洋の教育の歴史（2） 近代公教育制度の変遷 について社会的背景との関連から学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	4 教育の歴史（3）	日本の教育の歴史（1） 近代以前を中心に社会的 背景との関連から学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	5 教育の歴史（4）	日本の教育の歴史（2） 近代以降、現代を中心 に社会的背景との関連から学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	6 教育の思想（1）	代表的な教育思想家について（学校及び家庭教育 と子どもとの関係を中心に）学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	7 教育の思想（2）	代表的な幼児教育思想家について学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	8 諸外国の教育事情と教育改 革の動向	諸外国の教育事情と教育改革について知る	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	9 公教育の原理及び制度	公教育の原理と制度の基本的事項を理解する	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	10 教育制度を支える教育行政 の理念と仕組み	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを諸法 令等から理解する	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	11 学校（幼稚園）における安全 管理と対応	学校（幼稚園）における安全管理・安全教育につい て学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	12 小学校との連携と協働	学校（幼稚園）における小学校との連携及び協働に ついて学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	13 近年の教育政策の動向	子どもの生活変化と学校を巡る諸課題について知る	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	14 学校（幼稚園）における地 域との連携と協働（1）	幼稚園における地域との連携及び協働について学ぶ	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	15 学校（幼稚園）における地 域との連携と協働（2）	地域に開かれた幼稚園について講義した後、グ ループ毎で主題に関する課題に取り組む	前回の授業内容を 復習し、次回の主 題を確認する	
	16 定期試験	筆記試験	これまで学習した ことを復習する	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
2	授業の形式は講義であるが、主題 に応じてグループで取り組む課題 も実施する。	新・基本保育シリー ズ2「教育原理」公 益財団法人児童育成 協会監修(中央法規)	授業時に提示する	教育・保育の基礎的事項 を学びます。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	木曜日5時限	なし
定期試験	60	筆記試験の得点		
課題提出	40	課題提出の有無と成果		
			なし	

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
10	子ども家庭福祉	2	30	選択 (保必)	講義	1年	後期	松澤 高志
実務経験と授業科目との関連性		障害者支援施設等での勤務経験および地域福祉活動経験を活かし子ども家庭福祉について具体的な事例を交えながら講義を進めていく。						
講義目的		子どもおよびその家庭を取り巻く環境や問題について理解し、保育者としてどのような視点や方法をもって支援すべきかについて理解する。						
到達目標		1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義・理念等について説明することができる。 2. 子ども家庭福祉と児童の人権等について討議することができる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明することができる。						
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉を学ぶ目的を理解する。			なし		
	2	現代社会と子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く環境の変化や現代社会の流れについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	3	子どもの人権(子どもの権利条約)	子どもの権利条約をもとに、その内容や動向について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	4	子ども家庭福祉の成立と展開	諸外国の子ども家庭福祉の成立と日本の子ども家庭福祉の歩みについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	5	子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設	子ども家庭福祉の法体系や機関・施設等について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	6	子育て支援・次世代育成支援と保育施策	子育て支援制度や関連する法律等について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	7	子ども虐待とDV問題の防止施策	子ども虐待やDV現状と予防施策について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	8	子ども家庭福祉に関する事例検討①	子ども家庭福祉に関する事例を提供し、その課題や対応について検討する。			事例に関する資料を読む		
	9	子ども家庭福祉に関する事例検討②	子ども家庭福祉に関する事例を提供し、その課題や対応について検討する。			事例に関する資料を読む		
	10	子ども家庭福祉に関する事例検討③	子ども家庭福祉に関する事例を提供し、その課題や対応について検討する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	11	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策	社会的養護の仕組みや要保護児童の動向について説明する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	12	障がいがある子どもへの福祉施策	障がいとはなにか、障がい児・者に関する福祉施策について説明する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	13	心理治療を必要性や非行問題を抱える子どもへの支援	心理治療や非行問題を抱えた子どもへの支援について説明する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	14	子ども家庭福祉の専門職との連携	関係機関や専門職との連携について説明する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	15	子ども家庭福祉の動向と展望/まとめ	これからの子ども家庭福祉の動向についてまとめる。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	16	定期試験	筆記試験			これまでの復習		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
6	テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。		喜多一憲・堀場純矢「みらい×子どもの福祉フックス 子ども家庭福祉」(みらい)、川名はつ子「はじめまして、子どもの権利条約ワークブック」(東海教育研究所)		なし		講義においては、学生と対話しながら進めていきます。積極的な参加を期待します。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		水曜日3時限		なし	
定期試験		70	筆記試験		受講前に学習すること		なし	
講義の振り返り・取り組み		30	適切な内容や分量など					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
11	社会福祉	2	30	選択 (保必)	講義	1年	前期	松澤 高志
実務経験と授業科目との関連性		障害者支援施設等での勤務経験および地域福祉活動経験を活かし、社会福祉の現状や課題、制度など事例を交えながら具体的に講義する。						
講義目的		社会における様々な現象を把握し、社会福祉の対象や視点について学びながら、社会福祉の理念と役割について理解する。						
到達目標		1.現代社会における社会福祉の理念や概念について論じることができる。 2.社会福祉の制度や実施体系等について特徴をふまえて分類することができる。 3.障がい者や高齢者の福祉、相談援助や地域福祉について説明できる。 4.具体的な事例検討を通して社会福祉の課題について討議できる。						
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション/社会福祉を取り巻く環境①	社会福祉とはなにか、保育と社会福祉の関係性についても理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	2	社会福祉の理念と概要	社会福祉の考え方と役割について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	3	社会福祉を取り巻く環境	少子高齢化や貧困問題などについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	4	社会福祉の歴史の変遷	社会福祉の歴史について欧米と日本の比較をする。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	5	社会福祉制度の比較①	社会福祉に関する映像からヨーロッパ諸国の制度をまとめていく。(前半)			なし		
	6	社会福祉制度の比較②	社会福祉に関する映像からヨーロッパ諸国の制度をまとめていく。(後半)			なし		
	7	日本の社会保障制度と社会福祉の実施機関	日本の社会保障制度や社会福祉行政の仕組みについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	8	社会福祉制度と法体系	社会福祉の制度や法律について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	9	社会福祉の実施機関と社会福祉施設	社会福祉の実施期間と社会福祉施設の種類について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	10	社会福祉と児童家庭福祉①	社会福祉に関連する事例について説明と課題を明らかにした後、グループで検討する。			事例に関する資料を読み込むこと		
	11	社会福祉と児童家庭福祉②	社会福祉に関連する事例について説明と課題を明らかにした後、グループで検討する。			なし		
	12	障がいと障がい者福祉	障がいや障がい者福祉の体系について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	13	高齢者福祉と介護保険	高齢者福祉の体系や介護保険制度について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	14	地域福祉とその推進	地域福祉の理念と地域福祉の推進について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	15	社会福祉における相談援助	相談援助の意味と方法について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
16	定期試験	筆記試験			第1回から第15回までの復習			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
6	テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。		学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 「保育と社会福祉(第3版)」 橋本好市・宮田徹編集 (みらい)		なし		講義においては、学生と対話しながら進めていきます。積極的な参加を期待します。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
定期試験		70	筆記試験			受講前に学習すること		
講義の振り返り・取り組み		30	適切な内容や分量など					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
12	社会的養護 I	2	30	選択 (保必)	講義	1年	前期	松澤 高志
実務経験と授業科目との関連性		知的障害者支援施設および身体障害者更生援護施設での勤務経験を活かし、社会的養護に関する事例などをもとに、実践的な学びが深められるよう講義をおこなう。						
講義目的		現代社会における子どもを取り巻く状況を理解し、社会的養護を必要とする子どもを支える制度や実施体系、施設・家庭養護の実際について理解する。						
到達目標		1. 社会的養護の意義・理念、制度や実施体系等について説明することができる。 2. 社会的養護を必要としている子どもの権利擁護について論じることができる。 3. 社会的養護における子どもの最善の利益について説明することができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション/社会的養護の現状	社会的養護の現状と課題について理解する。			なし		
	2	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何かを学び、理念や概念について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	3	社会的養護の歴史の変遷	社会的養護の歴史について、諸外国と日本を比較しながら理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	4	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの最善の利益や権利を守るための仕組みについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	5	社会的養護の実施体系	社会的養護の制度や実施体系について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	6	社会的養護の領域と概要①	社会的養護の実施機関の一つである乳児院について理解する。			配付資料を読む		
	7	社会的養護の領域と概要②	社会的養護の実施機関の一つである児童養護施設について理解する。			配付資料を読む		
	8	社会的養護の領域と概要③	社会的養護の実施機関である、心理治療施設・児童自立支援施設について理解する。			配付資料を読む		
	9	社会的養護の領域と概要④	自立とは何かを考え、社会的養護からの自立について自立援助ホームを中心に理解する。			配付資料を読む		
	10	社会的養護の領域と概要⑤	社会的養護の実施機関の一つである障がい系の施設について理解する。			配付資料を読む		
	11	家庭養護と施設養護	新しい社会的養育ビジョンを基に、家庭養護の実際について理解をする。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	12	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	被措置児童虐待防止の現状と課題について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	13	社会的養護に関わる専門職	社会的養護の専門職・実施者について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	14	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	社会的養護とソーシャルワークについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	15	施設の運営管理の現状と課題/まとめ	施設の運営管理について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	16	定期試験	筆記試験			なし		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
6	テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。		公益財団法人児童育成協会監修 新・基本保育シリーズ6「社会的養護 I」(中央法規)		なし		講義においては、学生と対話しながら進めていきます。積極的な参加を期待します。	
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限	なし	
定期試験		70	筆記試験					
課題レポート提出		30	内容・分量・自らの意見が明記されているか			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
13	保育者論	2	30	必修	講義	1年	後期	鈴木 美枝子
実務経験と授業科目との関連性		保育士、特別支援学校及び中学校での勤務経験を踏まえ、保育者の役割や専門性、連携・協働、キャリア形成について講義を行う。						
講義目的		保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、保育者の専門性や資質・能力、保育者の連携・協働、保育者のキャリア形成について理解する。						
到達目標		1) 保育者の役割と倫理、保育士の制度的位置づけ、保育士の専門性として保育士の資質・能力と養護及び教育の一体的展開を理解できる。 2) 保育者の連携・協働及び資質向上のためのキャリア形成について理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1 保育者の存在意義	「保育者」のイメージ「保育者になる」ということについて考える				事前にシラバスを 読んでおく		
	2 保育者の職業的な特徴	保育者という職業の特徴について考える				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	3 保育者の役割(1)	保育者の役割の変遷と今日的役割—幼稚園—				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	4 保育者の役割(2)	保育者の役割の変遷と今日的役割—保育所—				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	5 保育者の資質と能力(1)	幼稚園の一日の仕事(事例)から考える				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	6 保育者の資質と能力(2)	保育所の一日の仕事(事例)から考える				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	7 保育者の制度的位置づけ	保育者に関する法令等から保育者の制度的位置づけや身分保障等について理解する				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	8 保育者の職務	保育者の子ども理解と保育者が活動を提案する事由等について考える				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	9 保育者の連携・協働(1)	園内の保育者間における関係について学ぶ				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	10 保育者の連携・協働(2)	保護者や家庭、地域社会との連携・協働・分担等について理解する				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	11 保育者の連携・協働(3)	小学校との連携・協働・分担等について理解する				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	12 保育者の専門性と省察(1)	保育者の専門性について学ぶ				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	13 保育者の専門性と省察(2)	保育者の専門性の維持・向上について学ぶ				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	14 保育者のキャリア形成(1)	キャリアステージを見通した保育専門職の育ちと学びについて考える				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	15 保育者のキャリア形成(2)	これからの保育者の専門職化について考える				前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当力所)を読む		
	16 定期試験	筆記試験を行う				これまで学習した ことを復習する		
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
2	授業の形式は講義であるが、主題に応じてグループで取り組む課題も実施する。	乳幼児教育・保育シリーズ「保育者論—子どもの未来を拓く保育者の役割」(光生館)	授業時に提示する	保育者として知っておいてほしい基礎的な事項を学びます。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			木曜日5時限	なし		
定期試験	60	筆記試験の得点			受講前に学習すること			
課題提出	40	課題提出の有無と成果						
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
14	保育・教育の心理学	2	30	必修	講義	1年	前期	内藤 美智子	
実務経験と授業科目との関連性		病院・児童相談所等での心理臨床活動経験を踏まえ、保育・幼児教育の基礎的事項、発達に応じた保育援助について講義を行う。							
講義目的		保育・幼児教育における発達理解の意義、発達に関する基礎的理論、各発達段階の特徴について学ぶ。さらに学習に関する基礎的理論を理解し、子どもの主体的学びを支える保育を考える。							
到達目標		1.子どもの心身の発達および学習の過程について理解している。 2.各発達段階における心理的特性、養護と教育の一体性や子どもの主体的学びを支える指導について理解している。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	保育・幼児教育における発達理解の意義	保育・幼児教育における心理学とは何か。保育者が発達を理解する意義を理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	2	発達を規定する要因	遺伝と環境など発達に影響を及ぼす要因について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	3	発達観・子ども観と保育・教育観	発達とは何か。子どもをどう捉えるか。発達観・子ども観と保育観との関わりを学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	4	子どもの身体・運動機能の発達	身体の発育と運動能力の発達について理解し援助を考える。			テキストの該当部分をよむ。			
	5	子どもの言語・コミュニケーションの発達	子どもの言葉の発達を理解し、コミュニケーション力の育成について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	6	子どもの認知能力の発達	子どもの知覚、知的能力の発達を理解し、あそびとイメージの世界の重要性を考える。			テキストの該当部分をよむ。			
	7	子どもの社会性の発達	人への志向性と他者との関わりについて理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	8	子どもの学習過程	学習に関する基本的理論を学び保育援助に生かす。			テキストの該当部分をよむ。			
	9	子どもの主体的な学びと動機づけ	内発的動機づけに基づく学びを理解し、応答的環境の構成を考える。			テキストの該当部分をよむ。			
	10	保育実践と学びの評価	保育における評価の意義とPDCAサイクルについて学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	11	生涯発達と発達援助(1)胎児期・新生児期	胎児・新生児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	12	生涯発達と発達援助(2)乳児期	乳児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	13	生涯発達と発達援助(3)幼児期	幼児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	14	生涯発達と発達援助(4)学童期	学童期の子どもの発達の特徴を理解し、援助について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	15	生涯発達と発達援助(5)青年期・成人期・老年期	生涯発達の視点から青年期以降の発達の特徴を理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	16	定期試験	筆記試験			指示された出題範囲について準備する。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	1.テキスト・プリント教材に基づく講義 2.授業中の課題についてレポートの提出		シリーズ知のゆりかご「保育の心理学」青木紀久代編(みらい)		なし		1年生後期から始まる実習に向けて子どもの発達についてしっかりと学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
定期試験		80	筆記試験の記述内容			受講前に学習すること			
レポート		20	指示された課題へのとりくみと内容						
						母子手帳、家族の話などをもとに自分の発達について振り返ってみる。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
15	子どもの理解と援助	2	30	必修	演習	1年	後期	内藤 美智子	
実務経験と授業科目との関連性	病院・児童相談所等での心理臨床活動経験を踏まえ、子ども理解の意義と基本的態度およびその方法について講義と演習を行う。								
講義目的	幼児理解の意義と理解を深めるための基本姿勢について学ぶ。さらに、観察・検査などによるアセスメントや記録、幼児のつまずきについて具体的に事例を通して理解する。								
到達目標	1) 子ども理解に関する知識と基本的態度を身につける。 2) 子どもを理解する具体的な方法を理解し、子どものつまずきに対応する基本的な力を身につける。								
教 育 内 容	本日の主題	授業概要					事前・事後学修	担当教員	
	1	子ども理解の目的と意義	保育者として子どもの内面を理解することの重要性・意義を学ぶ。					テキストの該当部分をよむ。	
	2	子どもの発達や学びの理解	子どもひとりひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、養護と教育の一体的展開について学ぶ。					テキストの該当部分をよむ。	
	3	遊びを通した子ども理解	子どもの生活や遊びの場面での事例を通して子ども理解に基づく保育者の援助を考える。					テキストの該当部分をよむ。	
	4	子ども理解を深める保育者の基本姿勢	子どもに対する共感的理解を学び、保育者に求められるカウンセリングマインドを理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	5	幼保小をつなぐ子ども理解	保育・幼児教育と学校教育との違いを理解し幼保小の連携の重要性と具体的試みについて学ぶ。					テキストの該当部分をよむ。	
	6	子どもの理解の方法 (1)観察	子どもを理解する方法として観察について学びその意義・留意点を理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	7	子どもの理解の方法 (2)発達検査	子ども理解の一方法として発達検査について学び、その意義・概要を理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	8	子どもの理解の方法 (3)知能検査	子ども理解の一方法として知能検査について学び、その意義・概要を理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	9	記録の意義と方法	記録を通して子どもを理解することの意義を学び、具体的方法について理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	10	クラス集団の理解と援助	個と集団の関係を捉える意義や方法を理解しクラス活動の事例を通して保育者の援助について考える。					テキストの該当部分をよむ。	
	11	子どもの発達のつまずきとその背景	幼児期の子どもを中心に、発達のつまずきとその原因・背景について学ぶ。					テキストの該当部分をよむ。	
	12	子どもの学びの過程で生じるつまずき	生活と遊びを通した学びの過程で生じるつまずきについて事例を通して理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	13	子どものつまずきとその対応	子どもの葛藤やつまずきについて保育者の対応を事例をもとに考える。					テキストの該当部分をよむ。	
	14	保護者理解と連携	保護者の心情を理解する方法を学び、連携の重要性、具体的対応について理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
	15	園内研修を通した子ども理解	保育者間の情報共有の必要性和、保育者の学び合いの意義について理解する。					テキストの該当部分をよむ。	
16									
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ					
3	1.グループごとの学習に基く発表 2.授業中の課題についてレポート作成	塚本美知子編著 「子ども理解と保育実践」(萌文書林)	なし	「子どもを理解する」とはどういうことなのか、しっかりと考えてみましょう。					
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目	配分(%)	評価基準				水曜日3時限	なし		
レポート	70	指示された課題へのとりくみと内容				受講前に学習すること			
授業時の発表	30	発表の内容・方法・参加度							
						前期履修の「保育・教育の心理学」について復習しておく。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
16	教育課程の編成と評価	2	30	必修	講義	1年	前期	鈴木 美枝子
実務経験と授業科目との関連性		特別支援教育コーディネーターの経験を踏まえ、保育の計画と評価、保育所保育指針、指導計画の作成について講義を行う。						
講義目的		保育の計画と評価、指針等における保育の目標と計画の基本的な考え方、全体的な計画と指導計画の関係性や作成について理解する。保育士及び保育所の自己評価等について理解する。						
到達目標		1) 保育の計画と評価を理解できる。 2) 保育所保育指針等における保育の目標と計画の基本的な考え方、全体的な計画と指導計画の関係性及び作成について理解できる。 3) 保育士及び保育所の自己評価と保育所児童保育要録等について理解できる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	学校教育における教育課程	「カリキュラム」や教育課程について学ぶ。			事前にシラバスを読んでおく		
	2	保育の基本と計画の考え方	保育における計画や教育課程の意義について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	3	保育における計画の変遷	幼稚園創設から1960年代までの保育計画の変遷について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	4	幼稚園教育要領の改訂の変遷	幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	5	保育所保育指針の改訂の変遷	保育所保育指針の改訂の変遷とその背景について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	6	幼児期に育みたい資質・能力	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質や能力について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	7	幼稚園における教育課程の役割と編成	幼稚園における教育課程の役割と編成について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	8	保育所における全体的な計画	保育所における全体的な計画の内容と意義について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	9	幼保連携型認定こども園における全体的な計画	幼保連携型認定こども園における教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	10	長期の指導計画と短期の指導計画①	長期の指導計画と短期の指導計画の基礎的事項について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	11	長期の指導計画と短期の指導計画②	長期の指導計画と短期の指導計画の実際(活用)について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	12	幼児理解に基づいた評価	幼児理解に基づいた評価の基礎的事項について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	13	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの意義と実際について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	14	幼児教育と小学校教育との接続	カリキュラムの観点から幼児教育と小学校教育との円滑な接続について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	15	世界の乳幼児教育改革	カリキュラムの観点から諸外国の乳幼児教育について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む		
	16	定期試験	筆記試験			これまで学習したことを復習する		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	授業の形式は講義であるが、主題に応じてグループで課題に取り組む機会を設ける。		乳幼児教育・保育シリーズ「教育課程論」神長美津子他編著(光生館)		汐見稔幸他監修「平成30年施行」保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		教育・保育課程の基礎を学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		60	筆記試験の得点		受講前に学習すること		なし	
課題提出		40	課題提出の有無と成果					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
17	保育内容 総論	1	15	必修	演習	1年	後期	山田 裕一
実務経験と授業科目との関連性		認可保育園保育士の経験を踏まえ、保育の意義、歴史的変遷、現状と課題、保育者の役割について講義を行う。						
講義目的		保育の歴史的変遷や、保育の内容、保育所の機能などを学び、保育は養護と教育が一体的に展開されるものであることを、事例や保育指針の理解を通して学ぶ。						
到達目標		1) 保育の内容、保育所の機能、保育の現代的課題を説明することができる。 2) 保育所保育指針・事例検討を通して、保育の全体的構造を説明できる。						
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	幼児教育・保育の基本	保育内容の歴史的変遷を知り、指針・要領と教育基本法・児童福祉法の関連を学ぶ			シラバスを読んでくる事後ノートをとまとめる		
	2	保育内容とは	養護と教育が一体的に行われる保育の全体像を事例から学ぶ			ノートをとまとめる		
	3	子ども理解	指針等に述べられている「子どもの心情・意欲・態度」とは何であるか事例から学ぶ			ノートをとまとめる		
	4	子どもの育ちと保育内容	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			シーン1～5のまとめ		
	5	保育内容の展開	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			シーン6～10のまとめ		
	6	主体的な遊びで育つ子ども	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			シーン11～15のまとめ		
	7	子どもが応え、子どもに応える保育とは	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			配布プリントを読んで臨む		
	8	これからの保育と課題	多様化する保育ニーズ、特別な支援を必要とする子どもや家庭、多文化共生時代の保育等、保育の今日的課題に関心を持つ			ノートをとまとめる		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義形式と演習形式、グループワーク		改訂「保育内容総論」(建帛社)		なし		多くの事例に触れ、保育という営みに関心を持ち、子どもを理解する力をつけて欲しいと思っています。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
授業への取り組み		30	積極的発言			受講前に学習すること		
グループ参加		30	テーマに適切に答えられているか					
課題提出		40	記述内容 提出期限			なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
18	保育内容の指導法Ⅰ (健康・表現)	2	30	必修	演習	1年	後期	山田真治・白金俊二 米窪洋介
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、幼児の健康に関する支援方法と理解について講義と演習を行う。(白金) 中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。(山田)						
講義目的		幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」、「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。						
到達目標		幼児の心情、認識思考及び動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。領域「健康」、「表現」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	幼児の基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の形成と環境構成について学ぶ			シラバスを読んでくる		白金
	2	健康管理と安全能力	健康管理と安全能力を育む指導について理解する			指示された事前課題に取り組む		白金
	3	健康管理と安全能力	生活安全や災害安全についての指導法について学ぶ			指示された事前課題に取り組む		白金
	4	指導案の作成	指導案作成の手順等について学び指導法を理解する			運動遊びを考えてくる		白金
	5	食について	幼児の食への興味関心を高めるための指導法について理解する			指示された事前課題に取り組む		白金
	6	幼児の発達の理解	表現活動における資質、能力について理解する			発達段階の復習をしておく		山田
	7	幼児の表現評価	小学校教科との連続性について			評価基準の整理をする		山田
	8	表現活動の情報機器	音楽表現における情報機器の活用法			情報機器の利便性について考えてくる		山田
	9	指導案の作成	音楽遊びの模擬保育とその振り返り			音楽遊びを考えてくる		山田
	10	幼児の心情、思考の理解	ポートフォリオ等で幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む			幼児の表現活動の傾向を整理する		山田
	11	幼児の発達と造形表現	幼児の発達や学びの過程を理解し、造形表現活動において育みたい資質・能力について考える			次の主題を確認しておく		米窪
	12	評価と学びの連続性	幼児の造形表現における評価の考え方について理解する			次の主題を確認しておく		米窪
	13	遊びと造形表現	幼児の造形活動に用いられる様々な素材に触れ、あそびへの展開の可能性を理解する			次の主題を確認しておく		米窪
	14	造形表現活動の構想	表現活動における教材の活用法を体験的に理解する			次の主題を確認しておく		米窪
	15	指導案の作成	造形あそびの指導案を作成し、指導法を理解する。			次の主題を確認しておく		米窪
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
5	3名の担当教員で授業展開をしていきます。研究データ等を紹介しながら、自らが指導案を作成、模擬授業を行い自分なりの指導法を見いだしていきます。		「保育内容 健康・表現指導法」(学術文芸出版)		「幼児期運動指針」、新時代の保育双書「保育内容健康(第2版)」編集代表春日晃章(みらい)		予習、復習を必ず行って下さい。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし
授業の課題		20	記述内容			受講前に学習すること		
指導案作成		40	提出物の内容					
講義内のレポート		40	記述内容			前期で学んだ健康・表現の領域のねらいと内容を復習しておいて下さい。		

科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
19	保育内容の指導法Ⅱ (環境・人間関係)	2	30	必修	演習	I年	後期	山藤 宏子

実務経験と授業科目との関連性	
講義目的	領域「人間関係」及び「環境」のねらい及び内容を踏まえて、乳幼児の興味・関心を理解し、資質・能力の長期的な発達について総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を具体的に体験し、習得する。
到達目標	1. 幼児期における教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」「環境」の意義を理解できる。 2. 子どもと環境(人的・物的)との関わりについて理解し、理論的・実践的に活用できる。 3. 保育者の環境(人的・物的)への配慮や援助のあり方について理解し、保育を構想できる。

教 育 内 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員	
	1	ガイダンス	乳幼児を取り巻く多様な保育・社会環境の現状について理解する	なし	
	2	領域「人間関係」「環境」	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」「環境」とは何かを理解する	前回の授業内容の復習と次回の主題の予習	
	3	保育環境の構成の基本	保育環境の要素(人的・物的環境)について理解する		
	4	個と集団の育ち①	子どもの発達を促す人的・物的環境(乳児期における個と集団)について理解する		
	5	個と集団の育ち②	人との関わりと環境構成(幼児期における個と集団)について理解する		
	6	生活力を育む	生活力を育む環境(人的・物的)について理解する		
	7	遊びと時間・空間	遊びを豊かにする環境(時間・空間)について理解する		
	8	環境認識	思考力と読み書き・数量・図形を育む環境と情報機器の活用法について理解する		
	9	協同性を育む	子ども主体の協同性を育む環境構成と留意点について理解する		
	10	指導計画の基本	指導計画の意義とポイントについて理解する		
	11	指導計画の立案	保育環境(人的・物的環境)への配慮を理解した上で、指導計画を立案する		
	12	模擬保育①	保育環境(物的環境)の設定を中心とした模擬保育を行う		
	13	模擬保育②	模擬保育の振り返りをグループで行う		
	14	学びの連続性	幼児教育と小学校教育における人間関係・環境教育の連続性について理解する		
	15	保育環境の評価	環境(人的・物的)の質的評価と講義のまとめを行う		
16					

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
2	配布資料による講義、グループワーク	新時代の保育双書「保育内容環境(第3版)」秋田喜代美ほか編、「保育内容人間関係(第2版)」浜名浩編(みらい)	授業内で適宜紹介する	子どもと保育環境(環境・人間関係)との関わりを深く学びましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
最終レポート	30	情報の質と量、考察の論理性		
グループワーク・発表への貢献度	70	発言等の参加度	受講前に学習すること	
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
20	保育内容の指導法Ⅲ (言葉)	1	15	必修	演習	1年	前期	山田 裕一
実務経験と授業科目との関連性		認可保育園保育士の経験を踏まえ、子どもが言葉を獲得していく過程、言葉の発達のための援助方法について講義と演習を行う。						
講義目的		子どもが言葉を獲得していくために必要な大人の働きかけや環境の重要性を学び、感性・表現力・思考力・コミュニケーション力などが言葉によって育つことを理解し、援助方法を学ぶ。						
到達目標		1) 子どもが言葉を獲得していく過程を理解できる。 2) 言葉の発達に不可欠な大人の働きかけや環境について説明できる。 3) 言葉を育む児童文化財について学び、保育にとりいれる方法を説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	幼児教育の基本	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領における幼児教育のとらえかたを学ぶ			テキスト1章予習		
	2	乳幼児期の発達と領域「言葉」	言葉の発達を捉える視点について学ぶ			テキスト2章予習		
	3	多様な感情体験とことば	言葉体験についてグループワークを行い多様な感情と、表現について学ぶ			テキスト3章予習		
	4	信頼関係から生み出されることば	子どもの言葉が生まれるために求められる大人の関わりについて学ぶ			テキスト4章予習		
	5	思いや考えを伝えることば	言葉の可能性を考える			テキスト5章予習		
	6	「今、ここ」を超えて広がる世界とことば	書き言葉「文字」が広げる世界としての絵本を考える			テキスト6章予習		
	7	「ごっこあそび」とことば	言葉によってイメージを膨らませ、言葉を使って友だちと遊びを共有する子どもの世界を学ぶ			テキスト7章予習		
	8	幼児教育の現代的課題と領域「言葉」	子どもを取り巻く社会の変化は子どもの言葉の発達と無関係ではないことを学び、保育者としての関わりを考える			テキスト8章予習		
9	/							
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
2	講義形式・演習形式・グループワーク		新訂「事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉」(萌文書林)	なし	子どもが言葉を獲得していく大切な時期に立ち会う大人として、保育士の役割は大切です。しっかり学びましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			水曜日3時限	なし		
授業への取り組み	30	授業・演習への参加状況			受講前に学習すること			
グループワーク	30	積極的発言						
ノート提出	40	記述内容・提出期限			なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
21	子どもと音楽表現	1	15	必修	演習	1年	前期	山田 真治
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。						
講義目的		幼児の表現や姿や発達を理解する。音楽表現の基礎的な技能、知識を学ぶことにより、幼児の音楽表現を支えるための感性を豊かにする。						
到達目標		幼児の音楽表現の姿や発達が説明できる。音楽表現の基礎的な技能、知識を学び、感じる・みる・聴く・楽しむことを通して作り上げたイメージを豊かに表現することができる。また身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解	乳幼児や遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解する。			テキストを読んでおく		
	2	幼児の表現の発達の理解	幼児の素朴な表現、芽生えについて理解する。			発達段階の復習		
	3	豊かな環境と表現の関連性について	身体の諸感覚を通して環境と対話し感受性を豊かにする。			楽曲のイメージをを考えておく		
	4	身のまわりの音・声・楽器による音楽あそび	声や音の面白さに気付く。声や動きなど自ら創り出す音の多様性を生かした表現を行なう。			手作り楽器の素材を準備する		
	5	豊かな表現活動の体験	豊かな歌唱表現を習得。合唱、アンサンブルを通じ重なり合う音の美しさを体験する。			合唱アンサンブルの音取り予習をしてくる		
	6	音・歌遊びを「学び」の視点から捉える	簡易な楽器を用いて、幼児の発達に合わせたリズム遊びの展開を考える。			発達段階の復習		
	7	イメージを音で表現する	心情、情景などを楽器、声、身のまわりの音を使い、協働で表現する。			子どものうたの詩を作ってくる		
	8	総括と発表	ICTを活用した音楽表現活動を考え、学習発表をする。			発表の準備をしておく		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいに沿いながら授業展開を進めていく。創作活動、演奏活動を中心とした体験学習。		「子どもと表現」山田真治（学術文芸出版） 「音楽表現の基礎」山田真治（学術文芸出版）		「保育所保育指針 幼稚園教育要領 認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」（ミネルヴァ書房）		主題項目の内容が違っていても連続性が生じているので必ず復習をして下さい。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
学生自身の学習発表		70	提出状況と内容			受講前に学習すること		
授業内のレポート等の課題		30						
					シラバスを読んでおくこと。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
22	子どもと健康	1	15	必修	演習	1年	前期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、領域「健康」について、身体の成長に関わる今日的な課題を含めて講義と演習を行う。						
講義目的		心身の健康に関する領域である「健康」について、保育のねらいや内容を明らかにするとともに、乳幼児の心と体の発育・発達の特徴や身体の成長に関わる今日的な問題点などを理解できるようにする						
到達目標		1) 幼児期の健康課題と体の諸機能の発達等を理解する 2) 幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解する 3) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する						
教育 内容 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1 乳幼児の健康課題	領域健康のねらいや内容を理解し、乳幼児の健康課題について学ぶ				シラバスを読む		
	2 乳幼児の発達の特徴	乳幼児の身体的発達の特徴や生理的機能の発達について学ぶ				事前・事後学修用の資料を読む		
	3 乳幼児の生活習慣の獲得と形成	着脱衣、食事、排泄等の獲得と形成について理解する				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	4 安全意識や態度の育成について	幼児の安全に対する意識や態度の育成について学ぶ				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	5 幼児期に起こりやすいけがや病気	起こりやすいけがの特徴と応急処置の基礎、病気の予防について学ぶ				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	6 幼児期の運動発達の特徴	幼児期運動指針をもとに、幼児期の運動発達の特徴について理解する				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	7 運動コントロール能力とは	運動をコントロールする能力について学び、それを育む意義について理解する				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	8 子どもにとっての運動の重要性	子どもにとっての遊びとしての運動のあり方について理解する				事前・事後学修用の資料に取り組む		
9								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	主題に応じてグループワークを取り入れながら学修を進める		新時代の保育双書「保育内容健康（第2版）」編集代表春日晃章（みらい）		なし		主体的な学習をし、課題は必ず提出しましょう	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		水曜日3時限		なし	
レポート		70	定期的な課題提出		受講前に学習すること		なし	
演習参加		30	グループワーク・発表等					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
23	子どもと環境	1	15	必修	演習	1年	前期	山藤 宏子

実務経験と授業科目との関連性 保育現場経験を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容の理解を深めるため、具体的事例を交えながら講義と演習を行う。

講義目的 領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、保育内容に関する知識及び技術を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤になる現代の乳幼児を取り巻く人的・物的・情報環境及び社会の事象との関わりや発達過程について学ぶ。

到達目標 1. 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達との関係性を理解できる。  
2. 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解できる。  
3. 幼児期の文字や情報等への関心とそれらとの関わりや発達を理解できる。

教育 内容 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
	1 ガイダンス	現代社会の幼児を取り巻く環境(人的・物的)の必要性と課題について理解する	なし	
	2 子どもの育ちと環境	乳幼児の認知的発達と環境との関わりについて理解する	前回の授業内容の復習と次回の主題の予習	
	3 認知的発達と環境	乳幼児と環境との関わりを捉える視点を理解する		
	4 乳児期の環境	乳幼児と自然との関わりについて理解する		
	5 自然・生物との関わり	乳幼児と生物との関わりについて理解する		
	6 言葉・数量・図形との関わり	乳幼児期の豊かな言葉や数量・図形感覚を育む環境について理解する		
	7 文字・標識との関わり	文字・標識への乳幼児の気づき・関心を育む環境について理解する		
	8 情報・地域・行事との関わり	情報や地域・行事への乳幼児の関心を育む環境について理解する		
	9			

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
2	配布資料による講義、グループワーク	新時代の保育双書「保育内容環境(第3版)」秋田喜代美ほか編(みらい)	授業中に適宜紹介する	子どもを取り巻く環境についての理解を深めましょう

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
最終レポート	30	情報の質と量、考察の論理性		
グループワーク・発表への貢献度	70	発言等の参加度	受講前に学習すること	
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
24	子どもと人間関係	1	15	必修	演習	1年	後期	山藤 宏子	
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験および、NPO法人において地域児童と子育て家庭、あるいは震災避難児童（家族）と地域児童（家族）など、子どもを中心にした人をつなぐ活動に携わった経験を踏まえ、授業を展開する。							
講義目的		現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を及ぼしている要因について理解し、保育において保障すべき保育内容に関する知識を学ぶ。特に保育の基盤となる関係発達の視点について知り、他者との関係や集団との関係の中で人とかわる方が育つ過程を理解する。							
到達目標		1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴を理解できる。 2. 幼児期の人間関係の発達(自立心、協同性、道徳性・規範意識等)について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解できる。 3. 幼児期の遊びや人と関わる力の育ちがその後続く人生を支える力となることを理解できる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	ガイダンス	乳幼児を取り巻く人間関係の現代の特徴を把握する			なし			
	2	人間関係の広がり	3歳未満児の人間関係の発達とその広がりについて理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	3	人と関わる力を育む	幼児期の遊びや生活の中で育まれる人と関わる力とその広がりについて理解する						
	4	子どもの想いを支える	乳幼児期の自我の芽生えと自立心の育ちについて理解する						
	5	個と集団の育ち	乳幼児期の協同性の育ちについて理解する						
	6	人を大切にすること	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちについて理解する						
	7	関係的発達論	乳幼児期の人間関係の広がりについて関係発達論的な視点から理解する						
	8	他者と生きる	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係について理解する						
9									
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
2	配布資料による講義、グループワーク		新時代の保育双書「保育内容人間関係(第2版)」浜名浩編(みらい)	授業内で適宜紹介する	乳幼児期の人間関係を捉える視点について理解を深めましょう				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		水曜日3時限		なし		
最終レポート		30	情報の質と量、考察の論理性		受講前に学習すること				
グループワーク・発表への貢献度		70	発言等の参加度						
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
25	子どもと身体表現	1	15	必修	演習	1年	前期	山田 真治
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。						
講義目的		幼児の表現や姿や発達を理解する。身体表現の基礎的な技能、知識を学ぶことにより、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。						
到達目標		身体表現に必要な幼児の発達が説明できる。身体表現の基礎的な技能、知識を学び身体表現することの楽しさが実感できる。身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした身体表現ができる。協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、豊かな身体表現ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解	領域「表現」のねらい及び内容の理解と位置づけについて理解する。			テキストを読んでおく		
	2	自然との対話	身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。			身近な素材を意識しておく		
	3	生活との対話	多感覚性に着目して身近な遊びや生活に心が動いたことなどをもとに身体で表現する。			遊びで心が動いたことを思い出す		
	4	模倣による身体表現	身近にあるものを身体で捉え自分なりに身体で表現する。			身体で表現できることを考えておく		
	5	豊かな表現活動の体験	幼児の素朴な表現を見出し子どもの歌に合わせた身体表現をする。			身体で表現しやすい歌を考えておく		
	6	他者との対話	コミュニケーションとしての身体表現と創作劇による身体表現。			身体で表現しやすい物語を考えておく		
	7	音による創作表現	音のイメージを身体で表現する。 リトミックDVD鑑賞を行う。			テキストを読んでおく		
	8	ICTの活用と総括	ICTを活用した音楽表現活動（DVD鑑賞）を考え、学習発表をする。			発表の準備をしておく		
	9	/						
DP	学修方法		テキスト		参考書	教員からのメッセージ		
2	グループワーク形式で学習し、学生自身の学びが可視化できる学習発表を行っていく。		「子どもと表現」山田真治（学術文芸出版）		「保育所保育指針 幼稚園教育要領 認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」（ミネルヴァ書房）	身体を動かすことが苦手という学生もいると思いますが周りを気にしないで自分自身を表現して下さい。		
成績評価方法					オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		水曜日3時限	なし		
学生自身の学習発表		70	提出状況と内容		受講前に学習すること			
授業内のレポート等の課題		30						
					シラバスを読んでおくこと。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
26	乳児保育 I	2	30	選択 (保必)	講義	1年	後期	生田 恵津子
実務経験と授業科目との関連性		公立保育所における保育士・園長としての勤務経験を基に、乳児保育の基礎と乳児保育の実際について講義を行う。						
講義目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の意義と目的を学び、3歳未満児の発達に合わせた保育方法を考えることができる。</li> <li>・乳児が生活する様々な場所を知り、課題について考えることができるようになる。</li> </ul>						
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育の意義、目的と役割、歴史の変遷及び現状と課題を理解できる。</li> <li>2) 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育内容と運営体制を理解できる。</li> <li>3) 乳児保育における連携・協働（職員間、保護者、地域関係期間）について理解できる。</li> </ol>						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 乳児保育とは (1)	授業内容を理解する 乳児保育の意義と目的を理解する			シラバスを読んでおく		
	2	乳児保育とは (2)	保育所保育指針に定められている乳児保育の意味を理解する			保育所保育指針第2章1を読んでおく		
	3	乳児が生活する場 (1)	課程・保育園・認定こども園・小規模保育・乳児院・地域型保育事業などを知る			乳児保育の施設について調べてくる		
	4	乳児が生活する場 (2)	乳児保育の現状と課題について理解する			乳児保育施設を見学しておく		
	5	乳児保育のねらいと内容 (1)	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「健やかに伸び伸びと育つ」を理解する			保育所保育指針第2章1(2)-アを読んでくる		
	6	乳児保育のねらいと内容 (2)	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「身近な人と気持ちが通じ合う」を理解する			保育所保育指針第2章1(2)-イを読んでくる		
	7	乳児保育のねらいと内容 (3)	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「身近なものに関わり感性が育つ」を理解する			保育所保育指針第2章1(4)-ウを読んでくる		
	8	乳児の発達と保育 (1)	0～3ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			沐浴・授乳・おむつ交換について調べてくる		
	9	乳児の発達と保育 (2)	4～6ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			実習を振り返り月齢ごとの発達をまとめてくる		
	10	乳児の発達と保育 (3)	7～9ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			実習を振り返り月齢ごとの発達をまとめてくる		
	11	乳児の発達と保育 (4)	10～12ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			実習を振り返り月齢ごとの発達をまとめてくる		
	12	乳児の発達と保育 (5)	13～18ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			実習を振り返り月齢ごとの発達をまとめてくる		
	13	乳児の発達と保育 (6)	19～24ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			実習を振り返り月齢ごとの発達をまとめてくる		
	14	乳児の発達と保育 (7)	24～35ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			実習を振り返り月齢ごとの発達をまとめてくる		
	15	まとめ 1歳以上3歳未満児の保育	保育所保育指針に示される1歳以上3歳未満児の保育5領域について理解する			未満児保育の5領域について調べてくる		
	16	定期試験	筆記試験			これまで学習したことを復習する		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義形式ですが、主題に応じてグループで取り組む課題も取り入れる		阿部和子編著「改訂 乳児保育の基本 (第2版)」(萌文書林)		汐見稔幸他監修「(平成30年施行) 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		新任保育士は3歳未満児クラスの担任となるケースが多いため、すぐに必要となる知識です。しっかりと学びましょう	
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準			水曜日3時限	なし	
定期試験		60	筆記試験の得点					
課題		40	課題提出の有無と学習効果			受講前に学習すること		
						なし		

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
27	社会的養護Ⅱ	1	15	選択 (保必)	演習	1年	後期	松澤 高志
実務経験と授業科目との関連性		知的障害者支援施設および身体障害者更生援護施設での勤務経験をいかし、事例検討などを通して実践的な学びが深められるよう講義をおこなう。						
講義目的		社会的養護の具体的内容としての施設養護及び家庭養護の実際について理解する。また、社会的養護における相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家族支援についても理解する。						
到達目標		1. 施設養護と家庭的養護の比較をしながら、子どもの最善の利益について論じることができる。 2. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に応用できる。 3. 様々な事例検討を通して、子どもの最善の利益について根拠を基にした意見を述べるることができる。						
教育 内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション/子どもの権利擁護	社会的養護Ⅱについて、講義の概要と目的などを説明する。子どもの権利擁護に関する事例検討をする。			シラバスや配付資料を読む		
	2	保育士等の倫理及び責務	職員の連携やチームワークについて理解する。			事例や配付資料を読む		
	3	社会的養護の実施体系①	施設の小規模化や地域分散化の実情、家庭的養護の現状について理解する。			事例や配付資料を読む		
	4	社会的養護の実施体系②	家庭養護の現状と事例検討をする。			事例や配付資料を読む		
	5	児童虐待防止に向けた取り組み①	「オレンジリボンたすきリレー」の活動を理解する。			配付資料を読む		
	6	児童虐待防止に向けた取り組み②	「オレンジリボンたすきリレー」に参加し、理解を深める。			配付資料を読む		
	7	自立支援に関する事例分析①	社会的養護の自立をテーマに事例について考え、グループで意見交換する。			事例や配付資料を読む		
	8	自立支援に関する事例分析②	まとめた意見について発表する。			事例や配付資料を読む		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
6	配付資料とパワーポイントを使います。		なし		なし		事例検討やグループワークを取り入れ、実践的に学びます。主体的に取り組みましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
最終課題		50	レポート提出			受講前に学習すること		
課題提出物		30	提出期限、内容、分量等					
授業での取り組み		20	グループ活動の参加状況、など			社会的養護や児童虐待に関する記事などに目を通しておいください。		

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
28	子どもの音楽 I	2	30	必修	演習	1年	前期	山田(真) 齊藤 高倉 山口 飯田 鎌倉 野田 輪湖
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。(山田)						
講義目的		保育現場では現状ピアノを用いることが多い。個人の演奏技術を高めるとともに現場に即した弾き歌い演奏ができること、既成楽譜が簡易楽譜にアレンジできるようにする。						
到達目標		子どもの発達段階を理解した上で、保育現場の音楽表現に必要なピアノ演奏技術を習得し、子どもの目線に合った音楽表現ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	読譜力の練習	高音部譜表・低音部譜表を理解する			読譜練習		担当教員 全員
	2	リズム練習とピアノ練習	リズムを理解する			リズム練習		担当教員 全員
	3	子どもの歌の指導(1)	生活の歌を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	4	子どもの歌の指導(2)	行事の歌 4月～8月を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	5	子どもの歌の指導(3)	行事の歌 9月～3月を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	6	子どもの歌の指導(4)	季節の歌 3月～5月を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	7	子どもの歌の指導(5)	季節の歌 6月～8月を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	8	子どもの歌の指導(6)	季節の歌 9月～11月を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	9	子どもの歌の指導(7)	季節の歌 12月～2月を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	10	子どもの歌の指導(8)	季節外の歌を練習する			課題曲練習		担当教員 全員
	11	弾き歌い指導(1)	メロディー(右手)と歌の関係について理解する			弾き歌い練習		担当教員 全員
	12	弾き歌い指導(2)	歌とピアノ伴奏の関係について理解する			弾き歌い練習		担当教員 全員
	13	コードネームの理解	音の名称と主要3和音を理解する			コードネームの復習		担当教員 全員
	14	既成楽譜のアレンジ	メロディー、伴奏をアレンジする			読譜力の復習		担当教員 全員
	15	演奏発表	人前での弾き歌い発表			発表の準備		担当教員 全員
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	個人の読譜力、リズム感を確認しながら、個人レベルに合わせた個人レッスン形式で学修していく。		「保育のピアノ伴奏」阿部直美監修(日本文芸社)、「改訂実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)		「バイエル教則本」(全音楽譜出版)、「幼児の歌110曲集」(ATM出版)		課題で出された楽曲については、次のレッスンまでに必ず弾けるようにしておくこと。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		山田(真):水曜日3時限 兼任講師:授業終了後		なし	
演奏発表		80						
毎回の授業の課題進捗状況		20						
					受講前に学習すること			
					バイエル60番程度まで終了しておくのがのぞましい。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員		
29	子どもと運動遊び	2	30	必修	演習	1年	前期	白金 俊二		
実務経験と授業科目との関連性	小学校・中学校での教員経験を踏まえ、子どもの運動機能の発達、遊びを引き出す環境について保育現場での遊びを題材に演習を行う。									
講義目的	鬼遊びやボール等の用具を使った運動遊びなどの子どもが日常的に行っている遊びの体験を通して、保育現場での実践力を育成する									
到達目標	子どもの運動機能の発達等を理解して、遊び方を工夫したり提案したりすることができる									
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員			
	1	オリエンテーション	授業の目的、進め方、服装などについて確認する				シラバスを読む			
	2	多様な動きをつくる運動遊び1	幼児の運動遊びに見られる基本動作を理解し、様々な動作を引き出す遊びについて知る				動ける体づくりを心掛ける			
	3	多様な動きをつくる運動遊び2	様々な動作を引き出す遊びを理解する				配布資料を読む			
	4	いろいろな鬼遊び1	伝統的な鬼遊びについて理解する				体験した鬼遊びをまとめ、グループ毎に創作する鬼遊びの参考とする			
	5	いろいろな鬼遊び2	ルールを工夫した鬼遊びについて理解する							
	6	鬼遊び作りと実践1	前半グループの創作した鬼遊びを発表する				グループ毎に鬼遊びを準備する			
	7	鬼遊び作りと実践2	後半グループの創作した鬼遊びを発表する							
	8	伝統的な遊び1 体力測定1	けん玉の遊び方を知る 自身の体力について知る(握力・立ち幅跳び・上体起こし)				動ける体づくりを心掛ける			
	9	伝統的な遊び2 体力測定2	竹馬の遊び方を知る 自身の体力について知る(反復横跳び・長座体前屈)							
	10	縄跳び運動1	短縄でのいろいろな跳び方を理解する				準備品を確認し、動ける体づくりを心掛ける			
	11	縄跳び運動2	長縄跳びやダブルダッチを知る							
	12	器械運動遊び1	マットと鉄棒を中心に、基本的な体の使い方や補助の仕方を理解する				動ける体づくりを心掛ける			
	13	器械運動遊び2	マットと鉄棒のほか、雲梯や登り棒などにおける基本的な体の使い方や遊び方を理解する							
	14	ボールを使った運動遊び1	ボールを使った基本遊び(渡す・受ける・投げる・転がす・捕る等)を理解する				動ける体づくりを心掛ける			
	15	ボールを使った運動遊び2	ボールを使ったゲームの教材化について理解する							
16	/									
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ			
2	1 子どもが日常的に行う遊びをグループ等で追究する 2 自己評価カードを用い、運動の理解度を確認する		「運動遊びのアイデアBOOK」白金俊二(ほおずき書籍)		なし		楽しもうとする姿勢を大切に参加してください			
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件			
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし		
演習参加状況		50	運動遊びの創作内容			受講前に学習すること				
運動の理解		50	自己評価カードへの記述内容							
					なし					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
30	生涯スポーツ I	1	15	選択 (保選)	演習	1年	後期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性	小学校・中学校での教員経験を踏まえ、一人ひとりに応じたスポーツとのかかわりについて、一般に普及している種目を題材に演習を行う。							
講義目的	「それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる」ために、一般に普及しているスポーツ種目の学習を通して、実践的な態度を育成する							
到達目標	1) ネット型の球技としてのバレーボールの特性を理解し、3段攻撃を意識したプレーができる 2) ベースボール型・ゴール型の球技の特性を理解し、打つ・投げる・捕る技能や足を使った技能を高める 3) 自分たちが楽しく追究するために必要な教材化について考えることができる							
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1 ネット型の球技1	バレーボールの特性を理解する				服装・身だしなみを整えてくる		
	2 ネット型の球技2	バレーボールのルールを理解する				動ける体づくりをしておく		
	3 ネット型の球技3	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブなどの技能について理解する				動ける体づくりをしておく		
	4 ベースボール型の球技 1	ティーボールなどの教材を知り特性やルールを理解する				動ける体づくりをしておく		
	5 ベースボール型の球技 2	ベースボール型の球技の教材化を理解する				動ける体づくりをしておく		
	6 ゴール型の球技 1	バスケットボールの特性やルールを理解する				動ける体づくりをしておく		
	7 ゴール型の球技 2	フロアホッケーの特性やルールを理解する				動ける体づくりをしておく		
	8 ゴール型の球技 3	ゴール型の球技の教材化を理解する				動ける体づくりをしておく		
9								
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
5	チームを適宜編成し、自己評価カードを用いて運動の理解度を確認する	なし 適宜資料を配布する	なし	ケガをしないように取り組みましょう				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分 (%)	評価基準		水曜日3時限		なし		
運動の技能	50	自己評価カード		受講前に学習すること				
運動の理解	50	自己評価カード						
						なし		

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
31	幼児教育の方法	2	30	選択 (免必・保選)	講義	1年	後期	鈴木 美枝子
実務経験と授業科目との関連性		特別支援学校での教員経験を踏まえ、幼児教育の方法、教材研究、指導案の作成、情報機器の活用について講義を行う。						
講義目的		乳幼児の心身の発達と、環境を通して養護及び教育を一体的に展開する保育の特性を理解したうえで、養護を保障するために保育士等が行う援助や態度の基本、遊びや生活が豊かに展開される保育の方法を具体的に学ぶ。						
到達目標		乳幼児の心身の発達と、環境を通して養護及び教育を一体的に展開する保育の特性を理解した上で、養護を保障するために保育者が行う援助や態度の基本、遊びや生活が豊かに展開される保育の方法を身につけ、活用できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力について理解する			なし		
	2	幼児教育の基本	幼児教育の基本と幼児教育に期待されるものについて理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習		
	3	幼児への関わり	保育者の話法、行動見本を主とした具体的な関わりについて理解する					
	4	幼児教育の方法①	自発的活動型保育について理解する					
	5	幼児教育の方法②	保育者主導型保育について理解する					
	6	幼児教育の方法③	活動発展型保育について理解する					
	7	教材研究	保育教材に関わる保育の実際と教材研究					
	8	指導案について①	モデル指導案に基づく保育の事例の紹介した後、実際に想定しながら指導案を作成する					
	9	指導案について②	環境図と予想される子どもの姿について事例提示した後、実際に想定しながら指導案を作成する					
	10	指導案について③	保育者の援助と具体的配慮について事例提示した後、実際に想定しながら指導案を作成する					
	11	指導案について④	指導案の作成における考察及び評価の内容について考え、自らの内容と照らし合わせる					
	12	情報機器の活用①	遊びを豊かにする情報機器の活用法について考える					
	13	情報機器の活用②	行事を豊かにする情報機器の活用法について考える					
	14	保育の質	保育の質の評価について理解する					
	15	学びの連続性	「主体的・対話的・深い学び」を柱とした小学校教育との連続性について理解する					
16	定期試験	筆記試験						
DP	学修方法		テキスト		参考書			教員からのメッセージ
2	配布資料による講義、グループワーク		なし		「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(文部科学省2021年2月)		子どもの遊びや生活が豊かに展開される幼児教育の方法を学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		50	筆記試験					
グループワーク・発表への貢献度		50	発言等への参加度		受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
32	教育実習指導	1	30	選択 (免必)	演習	1年 2年	後期 前期	山藤 宏子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的	教育実習に入る事前学習として、基本的知識と保育技術を学ぶ。事後学習で実習をより有意義な体験に高め、今日における幼児教育の課題や幼稚園教諭・保育教諭としての自己の適性、将来の目標として考える機会となるようにする。							
到達目標	幼稚園等の機能や役割、幼児教育の基本について説明できる。子どもの発達過程や興味・関心に合わせた指導計画を立案できる。実習の省察を通して自己課題を明確にし、幼稚園教諭等としての倫理観、使命感について説明できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	教育実習の意義と目的、計画、手続きについて理解する (各種書類等確認)			実習要領の確認		
	2	オリエンテーションについて	自己課題の設定とオリエンテーションの内容確認			自己課題の整理		
	3	実習記録について	実習記録による省察の意義と記述法の指導			実習記録の事前記入		
	4	子ども理解と保育方法	責任実習の基本の確認			遊びの研究と主活動の選定		
	5	指導計画の作成	課題活動の指導案を作成する			指導案作成		
	6	教育実習(1年次)の事後指導①	自己評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	7	教育実習(1年次)の事後指導②	園からの評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	8	指導計画の作成①	月齢ごとの子どもの姿を明確にする			1年次の実習日誌の読み返し		
	9	指導計画の作成②	課題活動の指導案を作成する			保育教材の研究と指導案提出		
	10	模擬保育①	3歳児クラスの模擬保育を行い課題を明確にする			模擬保育の準備		
	11	模擬保育②	4歳児クラスの模擬保育を行い課題を明確にする			模擬保育の準備		
	12	模擬保育③	5歳児クラスの模擬保育を行い課題を明確にする			模擬保育の準備		
	13	教育実習(2年次)の事後指導①	グループ討議を通して実習からの学びを明確にする			実習日誌の読み返し		
	14	教育実習(2年次)の事後指導②	実習日誌をもとに、今後の課題を明確にする			実習日誌の読み返し		
	15	教育実習(2年次)の事後指導③	まとめと今後の目標の設定			これまでの要点整理		
16								
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
3	講義、グループ討議、個別ワーク 1年次に第1～7回、2年次に第8～15回の授業を行います。		百瀬ユカリ編「よくわかる幼稚園実習(第2版)」(創成社)	授業内で適宜紹介する	事前・事後学修を通して実習での学びを深めましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
事前準備	30	事前準備の充実度			受講前に学習すること			
事後報告	30	報告内容の充実度						
提出物	40	指導案の充実度			なし			

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
33	教育実習	4	180	選択 (免必)	実習	1年 2年	後期 通年	内藤 生田 山田(真) 鈴木 白金 山藤 松澤 米窪 山田(裕)

実務経験と授業科目との関連性	
講義目的	幼児や幼稚園について理解を深め、具体的な経験を通して幼児教育の内容・方法や保育者に求められる資質や専門性について学習する。
到達目標	幼稚園・認定こども園の機能、保育者の役割、保育者の資質や専門性について説明できる。観察・責任実習等の具体的な活動を通して、幼児教育の内容・方法について理解できる。

教 育 内 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
	<p>1. 幼稚園の基本的機能と役割、子どもの生活や遊びの実態、幼稚園教諭の役割などについて理解する。</p> <p>2. 実習生としての自覚や責任感を持ち、実習に取り組む。</p> <p>3. 実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践する。</p> <p>4. 観察及び参加実習を主とし、これを踏まえて責任実習（部分実習）に取り組む。</p> <p>5. 実習後は、振り返りを行い、教育実習2年次に向けて自己の学習目標と課題を明確にする</p> <p>*上記について、文部科学省基準に基づき、幼稚園・認定こども園（幼保連携型又は幼稚園型）において10日間の実習を行う。</p>			

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
3	幼稚園、幼保連携型又は幼稚園型認定こども園における観察および実践	なし	百瀬ユカリ編「よくわかる幼稚園実習（第2版）」（創成社）	実習課題を明確にして積極的に実習に臨んでください。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	各教員のオフィスアワーを確認すること	実習指導科目の別規定に拠る
実習状況	50	実習自己課題・実習日誌		
実習園の評価	50	実習園からの評価	受講前に学習すること	
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
34	保育実習指導 I	2	60	選択 (保必)	演習	1年 2年	後期 前期	生田恵津子・松澤高志
実務経験と授業科目との関連性	各担当が下記の経験を踏まえ、保育実践の展開に必要な事項全般について指導を行う。 【生田：保育現場経験、松澤：障害者支援施設等勤務経験】							
講義目的	保育実習 I に係わる諸手続き（事務内容・実習先との連絡調整など）のほか、主体的に保育実践を展開するために必要な準備全般を理解する。							
到達目標	1) 実習施設の役割と機能が説明できる。 2) 子ども（利用者）の最善の利益、守秘義務などについて説明できる。 3) 実習の計画・実践・記録・省察の方法や内容について、具体的に理解する。 4) 事後指導を通して今後の学習課題を明確にする							
教 育 内 容		本日の主題	授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	ガイダンス	学生生活ガイド・実習実施要項を通して保育実習 1 の全体像を理解する。			なし	生田	
	2	保育所とは	保育所の機能と役割を理解し、保育士の役割を学ぶ。			なし	生田	
	3	実習先を決める	依頼の仕方を学び、実習先を自ら確保する。			なし	生田	
	4	実習の概要	保育実習 I のねらいと内容を理解する。			テキスト予習	生田	
	5	実習記録	実習記録の内容を理解し、記入方法を学ぶ。			なし	生田	
	6	オリエンテーション依頼	オリエンテーションの意味を理解し、依頼する。			なし	生田	
	7	記録記入	オリエンテーションで聞き取ったことを記録する。			なし	生田	
	8	子ども理解と保育方法	発達の違いと保育方法の違いを理解する。			なし	生田	
	9	課題と学びの計画	自己課題を明確にし、2週間の学びの計画を立てる。			なし	生田	
	10	指導案作成①	集団遊びの指導案を立てる。			指導案を考えてくること	生田	
	11	指導案作成②	制作の指導案を立てる。			指導案を考えてくること	生田	
	12	具体的準備①	自己紹介・手あそび・絵本・歌などを準備する。			なし	生田	
	13	具体的準備②	腸内細菌検査など、事務的な準備の確認をする。			なし	生田	
	14	事後指導①	チェックリストに沿って実習の自己評価をする。			なし	生田	
	15	事後指導②	実習報告書に沿って、実習報告を行う。			なし	生田	
16	施設実習の意義と目的	施設実習の目的と履修方法、社会福祉施設で実習を行う意義について理解する。			テキストの該当ページを読み込むこと。	松澤		

教 育 内 容	17	施設の種類の概要① (グループ作業)	社会福祉施設の種類の概要について講義した後、その概要や取り組みについて調べ学習を行う。	テキストの該当ページを読み込むこと。	松澤
	18	施設の種類の概要② (グループ発表)	社会福祉施設の概要について講義した後、グループでまとめたものを発表し理解を深める。	テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。	松澤
	19	障害理解と入所児童の心情理解	障害児・者支援施設(通所・入所)の概要と障害特性について理解する。また、社会的養護の下で生活する子どもの心情を理解する。	テキストの該当ページを読み込むこと。	松澤
	20	施設の1日の流れと実習内容の理解①	生活施設の事例から、施設生活の流れと実習内容について理解する。	テキストの該当ページを読み込むこと。	松澤
	21	施設の1日の流れと実習内容の理解②	生活施設の事例から、記録の仕方についてグループ話し合い発表する。	テキストの該当ページを読み込むこと。	松澤
	22	施設実習に向けての心得	施設実習に向けた心構えと、子ども・利用者を尊重した関わり、守秘義務について理解する。	テキストの該当ページを読み込むこと。	松澤
	23	実習先施設の選定	長野県保育士養成協議会の協議より分配された本学割り当て先から、実習先を選定する。	希望先を決めてくること。	松澤
	24	実習準備①(実習先との連絡調整)	オリエンテーションの内容、確認事項等について理解する。実習施設に連絡をおこなう。	実習先への確認事項等を整理しておくこと。	松澤
	25	実習準備②(実習記録・様式の確認)	実習記録の様式を確認し、各項目の記載方法について理解する。	実習記録の記載内容について確認すること。	松澤
	26	実習課題の設定①	実習課題や目標等を設定し、その達成方法についての確認を行う。	実習課題を考えてくること。	松澤
	27	実習課題の設定②	実習課題や目標等の確認を行った後、事前学習の内容等の点検を行う。	教員の指示に従い各事項を修正してくること。	松澤
	28	事前指導のまとめ	巡回指導用地図や施設概要、実習に関わる必要な書類等について作成と確認を行う。	報告書を作成してくること。	松澤
	29	[事後指導]実習の総括と課題の明確化①	実習を振り返り子ども・利用者への支援についてグループで検討する。	実習反省記録を記入してくること。	松澤
	30	[事後指導]実習の総括と課題の明確化②	実習の総括及び自己評価を行い、今後の課題を明確にする。	実習反省記録を完成させてくること。	松澤
31					
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ
3	保育所	テキストや配布資料をもとにグループ討議もまじえ、演習形式で行う。	「Let's have a dialogue!」ワークシートで学ぶ保育所実習」相浦雅子他編著(同文書院)	教育・保育実習要項	実習は、現場でしか体験できない生きた学びです。真摯に向き合う姿勢で臨んでください。
	施設	テキストや参考資料、配布資料を基に演習形式で展開する。	「Let's have a dialogue!」ワークシートで学ぶ施設実習」和田上貴昭他編著(同文書院)、「保育福祉小六法」保育福祉小六法編集委員会編(みらい)	教育・保育実習要項	施設の保育士における専門性は何かを常に考えつつ、積極的に取り組みましょう。
成績評価方法					
評価項目			配分(%)	評価基準	オフィスアワー
保育所	事前準備	20		生田：水曜日3時限 松澤：水曜日3時限	なし
	提出物	15			
	受講状況	15			
受講前に学習すること					
施設	事前準備	20			なし
	提出物	15			
	受講状況	15			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
35	保育実習 I	4	180	選択 (保必)	実習	1年 2年	後期 通年	内藤 生田 山田(真) 鈴木 白金 山藤 松澤 米窪 山田(裕)
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		既習科目での知識・技術を基礎に、保育所実習では乳幼児との日常を体験しながら保育所の役割や機能、そこでの保育士の業務の実際を知る。 施設実習では施設の概要を把握し、施設の実態を理解する。さらに、利用者への理解を深め、施設の意義などを学ぶ。						
到達目標		1) 保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2) 子ども(利用者)との関わり、子育て支援の実際を理解する。 3) 保育の計画・実践・記録および自己評価を通して、保育士の業務内容や職業倫理を説明できる。						
教育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>〈保育所実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育所の機能と役割を学ぶ</li> <li>2) 子どもの理解について学ぶ</li> <li>3) 保育内容・保育環境を学ぶ</li> <li>4) 保育の計画について知り、観察し記録する</li> <li>5) 自己評価を通して次の実習への自己課題に気づく</li> </ol> <p>〈施設実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設の機能と役割を学ぶ</li> <li>2) 子ども・利用者の理解について学ぶ</li> <li>3) 計画に基づいた活動や援助について学ぶ</li> <li>4) 専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ</li> <li>5) 記録に基づく省察と自己評価をする</li> </ol> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・幼保連携型認定こども園、および指定された施設において概ね11日間の実習を行う。</p>							
DP		学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
3	保育所	観察実習・部分実習	なし	「Let's have a dialogue!」ワークシートで学ぶ「保育所実習」相浦雅子他編著(同文書院)	実習は机上の学びの何倍もの学びが得られます。真摯に取り組んでください。			
	施設	児童福祉施設等での実践	なし	「Let's have a dialogue!」ワークシートで学ぶ施設実習 和田上貴昭他編著(同文書院)、「保育福祉小六法」保育福祉小六法協議委員会編(みらい)	実習を通して、保育士に求められる力量が高まっていくことを期待しています			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること	なし	
実習状況		50	実習自己課題・実習日誌			受講前に学習すること		
実習先評価		50						
						1年次夏季休暇中に保育士体験を二日以上しておくことが望ましい。		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
36	基礎ゼミナール	2	60	必修	演習	1年	通年	内藤 鈴木 松澤	生田 白金 米窪	山田(真) 山藤 山田(裕)	
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		保育・幼児教育の関連領域の基礎的学修に対して主体的に取り組む。									
到達目標		1) 保育・幼児教育関連領域の中から、興味・関心の深い学習課題を見出す。 2) ゼミナールごとに取り組む課題へ主体的・能動的に学修する姿勢を身につける。									
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員			
	1	基礎ゼミナールのオリエンテーション①	基礎ゼミナールの進め方、内容について確認する。			シラバスを確認する		担当教員全員			
	2	基礎ゼミナールのオリエンテーション②	各ゼミナールの内容を理解する。			保育・幼児教育の関連領域について、自分の興味・関心を考える		担当教員全員			
	3	基礎ゼミナールのオリエンテーション③	2年生による各ゼミナールの紹介を元に、理解を深める。			同 上		担当教員全員			
	4	基礎ゼミナールのオリエンテーション④	同 上			同 上		担当教員全員			
	5	ゼミナールの希望表の作成	保育・幼児教育の関連領域から自分の興味・関心を考え、所属ゼミナールの希望表に記入する。			同 上		担当教員全員			
	6	所属ゼミナールのオリエンテーション	各ゼミの内容について、担当教員からの説明を受ける。			同 上		担当教員全員			
	7	ゼミナールによる研究・活動	各担当教員の指示により、ゼミナールごとに研究・活動を行う。			各ゼミの課題にとりくむ		担当教員全員			
	8	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	9	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	10	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	11	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	12	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	13	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	14	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	15	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
16	同 上	同 上			同 上		担当教員全員				

教 育 内 容	17	ゼミナールによる研究・活動	各担当教員の指示により、ゼミナールごとに研究、活動を行う。	各ゼミの課題に取り組む	担当教員全員
	18	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	19	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	20	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	21	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	22	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	23	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	24	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	25	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	26	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	27	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	28	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	29	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	30	基礎ゼミナールのまとめ	1年間の基礎ゼミナールを振り返り、今後の課題を見出す。	同 上	担当教員全員
31					
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ
8	各学生が選択したゼミ担当教員を中心に、少人数形式で学修する。		各教員の指示による	各教員の指示による	興味・関心の深い領域について、主体的・能動的に学修し、ゼミという時間を楽しく共有しましょう。
成績評価方法				オフィスアワー	履修条件
評価項目		配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること
各ゼミの総合評価		100	ゼミ活動への参加度、研究に取り組む姿勢 等 配分はゼミによって異なる		
				受講前に学習すること	
				なし	

## 2. 幼 児 保 育 学 科

<2年生開講科目>

令和2年度 幼児保育学科2年生

授業科目の区分		No.	科目名	担当教員	開設時期	
					前期	後期
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	1	生命倫理	亀井		○
		2	健康と運動Ⅰ	白金		○
		3	健康と運動Ⅱ	白金、古屋	○	
	ひとの生活を考える	4	地域交流実践	米窪	○	
専門教育科目		5	子ども家庭支援論	山田(裕)	○	
		6	子ども家庭支援の心理学	内藤	○	
		7	子どもの保健	永石	○	
		8	子どもの食と栄養	水野		○
		9	子どもと造形表現	米窪	○	
		10	乳児保育Ⅱ	生田	○	
		11	子どもの健康と安全	永石	○	
		12	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	宮脇		○
		13	子育て支援	山田(裕)		○
		14	いのちと環境	米窪	○	
		15	保育・教育相談	内藤		○
		16	子どもの音楽Ⅱ	山田(真)	○	
		17	子どもと絵本	生田	○	
		18	ことばと表現	豊嶋	○	
		19	生涯スポーツⅡ	白金		○
		20	子どもと造形表現論	米窪		○
		21	幼児保育特講	山田(真)	○	
		22	教育実習指導	山藤	○	
		23	教育実習	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)	○	○
		24	保育実習指導Ⅰ	生田、松澤	○	
		25	保育実習Ⅰ	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)	○	○
		26	保育実習指導Ⅱ	生田	○	○
		27	保育実習Ⅱ	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)	○	○
		28	保育実習指導Ⅲ	松澤	○	○
		29	保育実習Ⅲ	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)	○	○
		30	保育・教職実践演習(幼稚園)	内藤、山田(真)、鈴木、山藤、米窪、山田(裕)		○
	研究演習	31	応用ゼミナール	内藤、生田、山田(真)、鈴木、白金、山藤、松澤、米窪、山田(裕)	○	○

※下線は主担当

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
1	生命倫理	2	30	選択	講義	2年	後期	亀井 智泉

実務経験と授業科目との関連性	
講義目的	実例や体験、歴史資料などの講義やグループワークを通して、命についての感性を高め、命を慈しむ保育の実践につなげる
到達目標	自分自身と他者のいのちへの感性を高め、いのちを大切にす保育の実践のために、子どもたちに命について自分の言葉で伝える力を涵養し、実践できる。

教育内容	本日の主題		授業概要	事前・事後学修	担当教員
	1	いのちとは	いのちとは何かを自分自身に問う		なし
2	いのちへの感覚：昔と今	「いのちの大切さ」の感覚が過去から現在へどのように変化したかを考える		「かっぱ」の姿を描けるようにしておく	
3	しょうがいについて	しょうがいを持つ子どもたちのいのちと成長について考える		参考図書「どんなかんじかなあ」を読んてくる	
4	子どもたちと病気	子どもたちの闘病と親の気持ちを考える		参考図書「電池が切れるまで」を読んてくる	
5	難病とともに生きるこども	病気とともに「大人になる」ことを考える		「ヘルプカード」を調べてくる	
6	成長する「いのち」	「こども」とはいつまでなのか、自分の「いのち」は誰が守るのかを考える		なし	
7	弱者は本当に「弱い」か？	福祉が「共生型サービス」（高齢者と障がい児・者の福祉の融合）へとシフトしていく昨今、「弱者」への視点について考える		地域包括ケアシステムについて事前学習	
8	いのちを「看取る」こと	在宅医療・こどもの「死」について考える		ACPとは何かを事前学習	
9	グリーフケア・グリーフサポート	死別の悲しみをケアする・乗り越える道のりを考える		うちだややく「岸辺のふたり」を読んてくる	
10	「いのち」への視点の確認	これまでの学びの中から、自分のいのちへの視点の変化を語り合おう		配布資料を読んてくる	
11	絵本や紙芝居の実践者から学ぶ	絵本の読み語りの実践から、子どもたちへの伝え方を考える		持参する絵本や紙芝居を選定する	
12	いのちの伝え方	こどもたちにいのちをどう伝えるかを考える		持参する好きな絵画を一つ用意する	
13	いのちの伝える手段としての絵本や紙芝居等①	いのちを伝える手段としての絵本や紙芝居等を学ぶ		配布資料を読んてくる	
14	いのちの伝える手段としての絵本や紙芝居等②	いのちを伝える手段としての絵本や紙芝居等を学ぶ（特に“ことば”について）		絵の題材を考えてくる	
15	いのちの伝える手段としての絵本や紙芝居等③	いのちを伝える手段としての絵本や紙芝居等を学ぶ（特に“絵”について）		「絵解き」について調べてくる	
16	定期試験	制作した絵本や紙芝居等の発表試験		これまでの復習	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
1	グループワークや学生同士の意見交換を交えての講義。	「読み聞かせて発達支援～絵本でひらく心とことば」（かもがわ出版）	適宜紹介する	実際の事例や絵本、歴史資料を通して、自分と他者のいのちについて一緒に考えましょう

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	授業終了後	なし
定期試験	50	発表試験（正しい理解をしているか）		
課題・レポート提出	40	課題・レポートの内容		
受講態度	10	積極的に受講すること		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
2	健康と運動 I	1	15	必修	講義	2年	後期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、健康な生活習慣の確立に必要な知識、実践方法について講義を行う。						
講義目的		毎日の生活習慣（食事・休養・運動）の積み重ねがその人の現在と将来の健康状態につながっていることを理解し、健康づくりの土台となる学生時代にその重要性を理解して実践へとつなげる力を育成する。						
到達目標		1) 健康な生活習慣の確立に向けて必要な知識を習得でき、実践する方法を理解できる。 2) 身体活動の意義やオリンピック・パラリンピックの歴史等への理解が深まり、広くスポーツについて関心が高まる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	授業の目的、行い方を理解し、自身の健康観について整理する			シラバスを読む		
	2	生活習慣病について1	生活習慣病の具体的病状とその要因について学習する			配布資料に目を通してくる		
	3	生活習慣病について2	生活習慣病の予防としての食事・休養・運動の大切さを学習し、実践方法を理解する					
	4	心の健康と脳の働き1	欲求や感情、ストレス等について理解する					
	5	心の健康と脳の働き2	脳の役割について、運動や学習と脳の関係などについて理解する					
	6	古代のスポーツ	遊びとスポーツの関連について、古代オリンピックの歴史や内容について学習する					
	7	近代オリンピックとスポーツの発展	近代オリンピックの歴史や日本のスポーツの発展について学習する					
	8	スポーツ文化の楽しみ方	社会におけるスポーツの役割やライフステージに応じた楽しみ方について考え、まとめる					
	9	定期試験	筆記試験					試験に向けて事前学修に取り組む
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	配布資料をもとに講義を行います		なし 適宜資料を配布する		なし		主体的・継続的な学習をしていきましょう。	
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限	なし	
定期試験		100	選択式・記述式					
						受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
3	健康と運動Ⅱ	1	30	必修	実技	2年	前期	白金俊二・古屋頭一	
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、条件や状況に応じてレクリエーションを選択、創造する実践力を実技により習得する。							
講義目的		レクリエーションの意義を理解し、その楽しさを幅広い対象者に提供する実践力を育成する							
到達目標		条件や状況等に合ったレクリエーションゲームを選択したり創造したりすることができる							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の目的、行い方を知り、レクリエーションゲームの意義を理解する			シラバスを讀んでくる		白金 古屋	
	2	レクリエーションゲームの体験 (4月17日)	・ネイチャーゲームとイニシアチブゲームの相違点に気づく ・ゲームの導入、展開、まとめの方法を理解する			ゲームのねらいや行い方を振り返る (事後)		白金 古屋	
	3								
	4								
	5	レクリエーションゲームの創造1	ゲームのアイデアを出し合い、ゲームの方向性を定める			ゲームのアイデアを考へてくる (事前)		白金 古屋	
	6	レクリエーションゲームの創造2	ゲームの内容の詳細を確かめる			ゲームの内容とねらいを再考する (事後)		白金 古屋	
	7	レクリエーションゲームの創造3	ゲームに必要な用具を準備する			ゲームの準備をする (事前)		白金 古屋	
	8	レクリエーションゲームの実践 (5月22日)	ゲームの発表を行う			ゲームの導入や終末を確認しておく 他のグループのゲームを記録する		白金 古屋	
	9								
	10								
	11								
	12								
	13	レクリエーションゲームの振り返り1	各ゲームを評価し、まとめる			ゲームの記録をまとめる		白金 古屋	
	14	レクリエーションゲームの振り返り2	記録をもとに実践したゲームを振り返る			ゲーム集のための原稿を作成する		白金	
	15	レクリエーションゲームのまとめ	ゲーム集を作成する			各ゲームを振り返る		白金	
16									
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	グループ単位での活動を中心に学ぶ		なし 随時プリントを配布する		なし		集中講義に向けてスケジュール調整と体調管理をしておく		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分 (%)	評価基準			白金：水曜日3時限 古屋：授業終了後		なし	
ゲーム実践の技能		50	導入・展開・まとめの技能						
グループワーク参加状況		50	ゲームのねらいや内容			受講前に学習すること なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
4	地域交流実践	1	30	選択	演習	2年	前期	米窪 洋介
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		1)地域社会の共助メカニズムを理解し、保育者の役割を考える。 2)地域社会の福祉・保育領域のニーズと問題点を調査し、それに応じた活動を企画・実践する。						
到達目標		1)地域社会の共助メカニズムを理解し、保育者の役割を考えることができる。 2)地域社会の福祉・保育領域のニーズと問題点を調査し、それに応じた活動を企画・実践できる。						
教 育 内 容		本日の主題	授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。			本授業の進め方と到達目標を確認しておく。		
	2	地域社会における共助	地域社会における共助について理解を深め、保育者の役割について考える。			次の主題を確認しておく。		
	3	地域調査①	地域について理解を深め、地域との繋がりを探る。			次の主題を確認しておく。		
	4	地域調査②	調査結果を発表し、地域の特性について理解する。			次の主題を確認しておく。		
	5	地域社会のニーズ①	地域社会におけるニーズと問題点について学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	6	地域社会のニーズ②	地域社会との関わり方について学ぶ。			次の主題を確認し、準備しておく。		
	7	地域交流の企画と実践①	地域交流として、発表会のテーマ設定と内容の検討。			次の主題を確認しておく。		
	8	地域交流の企画と実践②	地域交流として、発表会の企画案を作成する。			次の主題を確認しておく。		
	9	地域交流の企画と実践③	発表会の小道具や衣装の製作について造形的な技法を学ぶ。			次の主題を確認し、準備しておく。		
	10	地域交流の企画と実践④	発表会の役割や進行の方法について学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	11	地域交流の企画と実践⑤	言語を用いた表現方法について実践的に学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	12	地域交流の企画と実践⑥	ロールプレイを行いながら、企画の改善を行う。			次の主題を確認しておく。		
	13	プレゼンテーション①	地域交流の企画について、実践する。			次の主題を確認し、準備しておく。		
	14	プレゼンテーション②	地域交流の企画について、振り返りと反省を行う。			次の主題を確認し、準備しておく。		
	15	まとめ	授業の総括をする。			これまでの復習をしておく。		
16								
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
1	主題に応じて、実践的な学習方法(学外授業等)を取り入れる場合があります。	なし	なし	地域の方々と交流を深める授業です。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準		水曜日3時限		なし		
課題	50	内容と提出状況		受講前に学習すること				
グループワーク	50	企画とプレゼンの内容						
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
5	子ども家庭支援論	2	30	選択 (保必)	講義	2年	前期	山田 裕一

実務経験と授業科目との関連性 障害児相談支援専門員、スクールソーシャルワーカー、行政保健センター相談員等の経験を踏まえ、保護者の思いを受け止めつつ、子どもの最善の利益を大切にするためのあり方を考えられる授業を展開する。

講義目的 保育士による子育て家庭支援の意義や基本、多様な支援について学ぶ。

到達目標 1) 子ども家庭支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義とそれに関わる基本事項を理解している。  
2) 子育て家庭への支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状・課題を理解している。

教 育 内 容	本日の主題		授業概要	事前・事後学修	担当教員
	1	子ども家庭支援の意義と必要性	授業の内容・ルールを確認する。子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。	シラバスを読む。 授業の復習をする。	
	2	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と機能について理解する。	事前学修は、教科書の該当ページを読む。 事後学修は、授業の復習をする。	
	3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	保育の専門性を確認するとともに、子ども理解・保護者理解の視点について学ぶ。		
	4	子どもの育ちの喜びの共有	子どもの育ちの喜びを保護者と共有することの大切さを理解する。		
	5	保護者及び地域が有する自ら実践する力の支持	保護者・地域がもっている子育ての実践力の向上に資する支援について理解する。		
	6	保育士に求められる基本的態度	受容的関わり、自己決定の尊重、秘密の保持などの基本的態度について理解する。		
	7	家庭の状況に応じた支援	子育て家庭には様々な状況があることを確認し、個別に必要な支援をする大切さを理解する。		
	8	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	地域の社会資源について確認し、それらを活用・連携・協力することの大切さを理解する。		
	9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	子育て家庭の福祉に関わる社会資源を理解し、それらの機能や役割を確認する。		
	10	子育て支援施策・次世代育成支援策の推進	子育て支援に関わる施策の内容を確認する。		
	11	子ども家庭支援の内容と対象	妊娠期から子育て期にわたる様々な子ども家庭支援の内容について理解する。		
	12	保育所等を利用する子育て家庭への支援	保育所における子ども家庭支援の内容を確認する。		
	13	地域の子育て家庭への支援	地域の子育て家庭への支援の内容について理解する。		
	14	要保護児童およびその家庭に対する支援	要保護児童およびその家庭に対する支援の内容について理解する。		
	15	子ども家庭支援の現状と課題	子ども家庭支援の現状と課題について確認する。		
	16	定期試験	筆記試験（選択式・記述式）		授業全体の内容を復習する。

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
7	テキストと配布資料、スライドをもとに講義を行います。テーマに応じて体験学習に取り組みます。	西尾祐吾監修、立花直樹他編「保育者の協働性を高める子ども家庭支援・子育て支援」（晃洋書房）	なし	2年には子育て家庭支援に関わる授業が多くあります。その基本部分を確認しましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
定期試験	50	筆記試験		
課題提出	30	定期的な課題提出		
授業への参加状況	20	課題・体験学習等への取り組み	なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
6	子ども家庭支援の心理学	2	30	選択 (保必)	講義	2年	前期	内藤 美智子	
実務経験と授業科目との関連性		病院・児童相談所等での心理臨床活動経験を踏まえ、生涯発達心理学、家族・家庭の意義、子育て家庭の現状、子ども精神保健について講義を行う。							
講義目的		生涯発達に関する心理学の基礎的知識を修得し、家庭・家族の意義や家族関係を発達的な観点から理解する。さらに子育て家庭の現状と子どもの精神保健についても理解する。							
到達目標		1.生涯発達に関する心理学の基礎的知識を身につける。2.家族・家庭の意義や機能について理解している。3.子育て家庭をめぐる現状と子どもの精神保健について理解している。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	生涯発達という視点と考え方	生涯発達とは何か。また初期経験の重要性、発達課題、ライフサイクルについて学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	2	人間の発達過程 (1) 乳児期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	3	人間の発達過程 (2) 幼児期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	4	人間の発達過程 (3) 学童期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	5	人間の発達過程 (4) 青年期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	6	人間の発達過程 (5) 成人期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	7	人間の発達過程 (6) 老年期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	8	家族・家庭の意義と機能	子どもが育つ場として重要な意味をもつ家族・家庭の役割について考える。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	9	親子関係・家族関係の理解	親子・家族の関係について理解し、家族の発達を考える。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	10	子育て家庭に関する現状と課題	子育てをとりまく社会的状況と子育て家庭が抱えるさまざまな課題について概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	11	ライフコースと仕事・子育て	男女共同参画社会の実現、ワークライフ・バランスについて考える。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	12	多様な家庭とその理解	現代の多様な家族・家庭について理解し、個別的な援助を考える。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	13	特別な配慮を要する家庭	病気・障害・貧困など、特別な配慮を必要とする家庭について考える。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	14	子どもの精神保健とその課題	子どもの生活・生育環境とその影響について理解する。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	15	子どもの心の健康に関わる問題	子どもの心の健康をとらえる視点と具体的な症状について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。			
	16	定期試験	筆記試験			指定された出題範囲について準備する。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	1.テキスト・配布資料に基く講義 2.主題に応じてグループワークとレポート・発表を取り入れる		シリーズ知のゆりかご 「子ども家庭支援の心理学」青木紀久代編(みらい)		なし		家族・家庭をめぐるさまざまな問題に目を向け、共に考えてみたいと思います。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
定期試験		80	筆記試験の記述内容						
課題に応じたレポート		20	指示された課題へのとりくみと内容						
						受講前に学習すること			
						1年前期に履習した「保育・教育の心理学」のテキスト・配布資料により、子どもの発達について復習しておく。			

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
7	子どもの保健	2	30	選択 (保必)	講義	2年	前期	永石 喜代子

実務経験と授業科目との関連性 看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子どもの保健活動について学生自らが考えられるような授業を展開する

講義目的 子どもの心と身体の成長発達を理解し、子どもが健やかに育つための保健活動についての知識を習得する

到達目標 1) 子どもの心身の健康、保健活動の意義・目的を説明できる。  
2) 子どもの身体的発育・発達と保健、健康状態の把握の仕方、予防方法を説明できる。  
3) 他職種間連携のもとでの適切な対応の仕方を説明できる。

教育 内 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員	
	1	ガイダンス	子どもの心身の健康と保健の意義について理解する	なし	
	2	子どもの保健の諸統計	諸統計を学び、保育士として子どもの保健を学ぶ意義について考える	なし	
	3	子どもの心身の発達	心身の発達の原則とその評価について理解する	自分の出生時の体重・身長を調べる	
	4	子どもの生理機能の発達①	生体の成り立ち、呼吸・体温・循環の発達について学ぶ	高校生物の復習をしておく	
	5	子どもの生理機能の発達②	消化吸収・排泄・睡眠の発達について学ぶ	高校生物の復習をしておく	
	6	子どもの脳神経系の発達	脳神経系の基本的知識を押さえておく	高校生物の復習をしておく	
	7	子どもの運動機能の発達	運動機能の発達を学び、その発達を促すことのできる保育を考える	高校生物の復習をしておく	
	8	子どもの感覚の発達	視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚の発達とその評価について学ぶ	高校生物の復習をしておく	
	9	子どもの歯の発達	歯の発達とケアについて学ぶ	高校生物の復習をしておく	
	10	子どもの病気と予防・手当①	子どもの病気の特徴について理解する	テキストを読む	
	11	子どもの病気と予防・手当②	先天異常、呼吸器・循環器の病気について知る	テキストを読む	
	12	子どもの病気と予防・手当③	血液・消化器の病気、悪性腫瘍について知る	テキストを読む	
	13	子どもの病気と予防・手当④	精神神経系・泌尿器・生殖器・皮膚の病気について知る	テキストを読む	
	14	子どもの病気と予防・手当⑤	整形外科・口腔・眼・耳・鼻の病気について知る	テキストを読む	
	15	子どもの病気と予防・手当⑥	内分泌の病気、予防接種について知る	テキストを読む	
	16	定期試験	筆記試験	これまでの復習をしておく	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
4	講義・レポート	高内正子編著「子どもの保健と安全」(教育情報出版)	なし	子どもの保健は常に発展し続けています。日々、新しく正しい情報収集を心がけるようにしましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	火曜日5時限	なし
定期試験	50	筆記試験		
レポート	20	記述内容		
受講態度	30	積極性	子どもの心と身体についてだけでなく、自分の心と身体にも関心を持って生活すること	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
8	子どもの食と栄養	2	30	選択 (保必)	演習	2年	後期	水野 尚子
実務経験と授業科目との関連性		保健センターにおける乳幼児健診での栄養指導の経験を活かし、授業を展開する。						
講義目的		子どもの栄養は食生活や食習慣を形成し、生涯の健康の基礎となるため食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。更に心身ともに健やかに成長できるように食育の必要性と関連させ、専門性を養うことを目的とする。						
到達目標		保育者として小児の栄養・食生活についての正しい知識と技術を習得し実践に結び付けることができるようになることを最終目的とする。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活の関連。食生活の現状と課題について学ぶ			テキストの該当部分を読んでくること		
	2	栄養・食に関する基本的知識	栄養素と働きに関する基礎知識、日本人の食事摂取基準、献立の立て方について理解する			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	3	母性の栄養・乳児期の栄養	母乳栄養・人工栄養・混合栄養の特性、それを踏まえた問題への対処について理解する			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	4	調乳実習	人工栄養（育児用ミルク）の特性を知り、その調整について実践する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	5	調理の基礎	離乳食・幼児食を作るために調理の基礎および必要な技能を習得する。だしをとる。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	6	離乳食の基本	離乳食の進め方。離乳食の基本であるおかゆの調理を通して各期の固さについて理解する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	7	離乳期の食生活	離乳期に適した移行食の実習と評価を行う。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	8	幼児期の食生活	幼児期の栄養の特性を知り、食機能の発達と成長について理解する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	9	幼児期の調理	幼児期の発育に適した幼児食について理解する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	10	幼児期の発育に適した弁当づくり	幼児期の発育に適した弁当の選び方を学び、弁当をつくる。量とバランスについて学ぶ。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	11	食育媒体の作成	食を通じた養護と教育の一体性を理解する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	12	学童期の栄養と食生活	学童期の心身の特性、学校給食について理解する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	13	児童福祉施設における食事と食育	児童福祉施設における給食の役割と食生活について理解する。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	14	特別な配慮を要する子どもの栄養と食事	疾病及び体調不良の子どもへの対応、食物アレルギーについての対応、障害をもつ子どもへの対応について学ぶ。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
	15	生涯における食生活	学童期以後のライフステージにおける食生活について学ぶ。			前回の学修内容の確認とテキストの該当部分を読んでくる		
16	定期試験	筆記試験			これまでの復習			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
4	講義及び講義内容を踏まえた調理実習・演習を行う。		「ライフステージ 栄養学実習書」堀江祥充編著（光生館）	なし		調理実習では三角巾、エプロン、手拭きが必要です。動きやすい服装で参加してください。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		70	筆記試験		受講前に学習すること		なし	
レポート提出		30	記述内容					

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
9	子どもと造形表現	1	15	必修	演習	2年	前期	米窪 洋介

実務経験と授業科目との関連性	
講義目的	1) 子どもたちが安心して自己表現をし、感性と創造性を豊かにするための活動について学ぶ。 2) 造形表現活動に必要な道具の扱い方と手法についての理解と指導について学ぶ。
到達目標	1) 子どもたちが安心して自己表現をし、感性と創造性を豊かにするための活動を展開できる。 2) 造形表現活動に必要な道具の扱い方と手法についての理解し、指導することができる。

教育 内 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
	1 導入	本授業の進め方と到達目標を確認する。	シラバスを確認しておく。	
	2 切り紙	子どもの発達に合わせた、切り紙の遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。	授業の振り返りをレポートにまとめる。	
	3 染め紙	子どもの発達に合わせた、染め紙の遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。		
	4 スタンピング	子どもの発達に合わせた、スタンプの遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。		
	5 ポップアップ	子どもの発達に合わせた、ポップアップの仕掛けの方法を学び、保育における活用方法について理解する。		
	6 張り子の帽子①	行事や発表会などで活用できる帽子の作り方を学び、デザインを考える。		
	7 張り子の帽子②	行事や発表会などで活用できる帽子の製作と加工方法を学ぶ。		
	8 シャボン玉あそび	子どもの発達に合わせた、シャボン玉の遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。		
	9			

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
5	演習形式で行う。 主題に応じてグループ制作を行う。	佐善圭「造形のじかん」(愛智出版)	なし	表現の魅力について体感できる授業です。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
課題	50	内容と提出状況		
レポート	50	各課題の振り返りの内容		
			なし	

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
10	乳児保育Ⅱ	1	15	選択 (保必)	演習	2年	前期	生田 恵津子	
実務経験と授業科目との関連性		公立保育所における保育士・園長としての勤務経験を基に、乳児保育について実践的な授業を展開する							
講義目的		3歳未満児の発育・発達の課程や特性を踏まえた保育者の関わりの基本を理解し、生活や遊びを通して展開される保育の実際を学ぶ							
到達目標		3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助やかかわりについての基本的な考え方、養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育環境とその配慮、及び係る保育計画について具体的に理解できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション グループ討議	授業の進め方を理解し、グループごとに発達の柱を話し合う			乳児保育Ⅰでの学びを振り返っておく			
	2	0歳児の発達	0ヶ月から12ヶ月までの発達マップを作る			グループで発達の柱を決めておく			
	3	1歳児の発達	13ヶ月から24ヶ月までの発達マップを作る			1歳児の発達について調べてくる			
	4	2歳児の発達	25ヶ月から35か月までの発達マップを作る			2歳児の発達について調べてくる			
	5	0歳児の保育	0歳児の保育マップを作る			乳児保育Ⅰの発達と保育について復習してくる			
	6	1歳児の保育	1歳児の保育マップを作る			乳児保育Ⅰの発達と保育について復習してくる			
	7	2歳児の保育	2歳児の保育マップを作る			乳児保育Ⅰの発達と保育について復習してくる			
	8	3歳未満児の保育指導計画	互いの指導計画を見合いながら、指導計画のポイントを理解する			自身が決めた年齢の指導計画を立ててくる			
	9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	乳児保育Ⅰの学びを基に、グループワークを中心に行う。授業内で適宜プリントを配布する。		阿部和子・大方美香 編著 幼児教育・保育シリーズ「乳児保育の理論と実践」(光生館)		汐見稔幸他監修「(平成30年施行)保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		乳児保育の具体についての学びです。グループ討議、グループ作業において積極的な取り組みを期待します。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		水曜日3時限		なし	
課題		60		積極的発言・記述内容		受講前に学習すること		乳児保育Ⅰの復習	
ポートフォリオ		40		記述内容					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
11	子どもの健康と安全	1	15	選択 (保必)	演習	2年	前期	永石 喜代子
実務経験と授業科目との関連性		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子どもの健やかで安全な生活について実践的な授業を展開する。						
講義目的		子どもが健やかで安全に生活できる保育環境を理解し、適切な保育環境を展開する技術を習得する。						
到達目標		1) 保健的観点を踏まえた保育の環境構成や子どもへの援助方法を実践できる。 2) 健康・安全管理、体調不良・感染症等への具体的な対応・対策方法を実践できる。 3) 健康・安全管理の実施体制を説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	保健的観点をふまえた保育環境とは何かを理解する			なし		
	2	保育における健康と安全管理	健康で安全な環境について学ぶ			周囲を見回し、危険な場所を考える		
	3	子どもの体調不良とけがの対応	体調不良児の対応とけがの応急手当について学ぶ			前回の復習		
	4	事故発生時の対応	救急蘇生法を習得する・災害時の対応を学ぶ			講習を受けた救急法について復習する		
	5	子どもの感染症対策	感染症対策ガイドラインに基づく予防と対応について学ぶ			前回の復習		
	6	保健的配慮を要する子どもへの対応①	3歳未満児への対応について学ぶ			前回の復習		
	7	保健的配慮を要する子どもへの対応②	アレルギー性疾患、その他慢性疾患への対応について学ぶ			前回の復習		
	8	子どもの保健指導と保健活動	子どもの保健行事、保健指導、保健活動について学ぶ			自分自身の心と体をもつめる		
	9	定期試験	筆記試験			これまでの復習をしておく		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	講義・演習・レポート		高内正子編著 「子どもの保健と安全」 (教育情報出版)		なし		子どもの健康と安全のために自分ができることを常に考えながら授業に参加してください	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日5時限		なし
定期試験		45	筆記試験			受講前に学習すること 現在社会において子どもが生活する環境とはどのようなものか知っておくこと		
演習参加状況		35	積極性					
レポート		20	記述内容					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
12	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	2	30	必修	演習	2年	後期	宮脇 千史	
実務経験と授業科目との関連性		行政機関での保育園等における巡回支援や保護者の相談業務、病院での特別な支援を必要とする子どもの治療経験を活かし、支援について実践的な授業を展開する。							
講義目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする幼児の障害像、特性を理解し、特別支援教育のあり方を学ぶ。</li> <li>・様々な事例を通して、健常児との保育実践を知る。</li> <li>・保護者や関係機関との連携の仕方を学ぶ。</li> </ul>							
到達目標		特別な支援を必要とする子どもの状態を理解、説明することができ、発達段階に添った保育、教育実践が工夫できる							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	特別支援教育について	特別な支援を必要とする幼児の特別支援教育とは何かを理解する			シラバスを読んでおく			
	2	乳幼児期の正常発達について①	幼児教育に必要な乳幼児期の正常発達（粗大運動・巧緻運動）について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	3	乳幼児期の正常発達について②	幼児教育に必要な乳幼児期の正常発達（基本的な生活習慣・言語・コミュニケーション・社会性）について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	4	乳幼児期の正常発達について③	幼児教育に必要な乳幼児期の正常発達（認知機能・感覚）について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	5	障害の特性について	特別な支援を必要とする幼児の発達をどうとらえるか、障害の特性による困難さを理解する			テキストの該当箇所を読んでおく			
	6	運動障害について	運動障害（肢体不自由、医療行為が必要な疾患）をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	7	知的障害について	知的障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	8	発達障害について①	発達障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ（自閉スペクトラム症）			テキストの該当箇所を読んでおく			
	9	発達障害について②	発達障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ（注意欠陥多動症）			テキストの該当箇所を読んでおく			
	10	発達障害について③	発達障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ（その他の発達障害）			テキストの該当箇所を読んでおく			
	11	感覚障害、内部障害について	感覚障害（視覚、聴覚等）、言語障害、内部障害（病弱等）をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	12	健常児との幼児教育実践について	クラス集団の作り方、対応の仕方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	13	個別指導計画、教育指導計画の立て方について	特別支援教育をふまえての個別の指導計画、教育指導計画の立て方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	14	保護者支援、関係機関との連携について	保護者への支援や関係機関との連携、就学への援助の仕方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	15	外国籍、貧困について	外国籍（母国語の違い）や貧困・虐待等の問題により、特別な教育支援が必要な場合の方法を理解する			テキストの該当箇所を読んでおく			
	16	定期試験	筆記試験（択一式、論述形式）			授業の振り返り、復習をしておく			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	教員が、テキスト、配布資料をもとに講義形式で授業を進める		「特別支援教育・保育概論」尾野明美他著（萌文書林）		その都度紹介する		医療職としての立場から、児・保護者・支援者に関わってきた。巡回指導の経験から障害児保育に何が必要か伝えたい。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		100		筆記試験（択一式、論述形式）		受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
13	子育て支援	1	30	選択 (保必)	演習	2年	後期	山田 裕一	
実務経験と授業科目との関連性		障害児相談支援専門員、スクールソーシャルワーカー、行政保健センター相談員等の経験から具体的な事例を踏まえ、子育て支援に関わる葛藤と連携のあり方について考えられる授業を展開する。							
講義目的		保育士の行う子育て支援の特性や、内容・方法・技術について学ぶ。							
到達目標		1) 保育士の専門性を背景とした保護者支援の特性と展開方法を理解できる。 2) 保育士が行う子育て支援について、実践事例などを交えながら、様々な場面や対象に即した支援内容と方法を理解し、基本技術を扱うことができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	保育士が行う子育て支援の特性	授業の内容・ルールを確認する。保育士が行う子育て支援の特性を概観する。			シラバスを読む。 授業の復習をする。			
	2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者の支援	日常的・継続的な関わりを通じた支援と、保護者とのコミュニケーションについて考える。						
	3	ニーズへの気づきと多面的な理解	多様なニーズに対応する子育て支援のあり方を確認し、ロールプレイを通して考える。						
	4	子どもおよび保護者の状況・状態の把握	子ども・保護者の状況を確認するアセスメントの手順を確認し、整理・記述の方法を練習する。						
	5	子育て支援の計画	子育て支援の内容や計画の組み立てのイメージを確認し、支援計画を立てる練習をする。						
	6	子育て支援の環境構成	保育所や地域の子育て支援における環境構成の意義を学び、工夫例を考える。						
	7	子育て支援の具体的手段	支援の実践・記録・評価・カンファレンスの一連の流れについて確認する。						
	8	子育て支援の技術	保育士の専門的な知識・技術を活用した支援の実践について考え、事例をもとに練習する。			事前学修は、教科書の該当ページを読み、事前課題に取り組む。 事後学修は、授業の復習をする。			
	9	職員間の連携・協働	職員間の連携・協働の必要性を確認し、保育所における連携・協働を疑似体験する。						
	10	社会資源、自治体・関係機関や専門職との連携・協働	身近にある社会資源の種類を理解し、それぞれの役割や機能の特徴を整理する。						
	11	保育所等における子育て支援	保護者の子育てに関する主な相談内容を確認し、支援のあり方について考える。						
	12	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども・家庭への支援の様々な例と支援の基本的考え方を理解する。						
	13	子ども虐待の予防と対応	虐待の種類を確認し、虐待が疑われる親子への対応について考える。						
	14	要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童と家族の問題を確認し、家族のつながりや親子関係の再構築について考える。						
	15	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援	多文化共生社会における子育て支援について学び、実践例を考える。						
16									
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
7	テキストと配布資料、スライドをもとに講義を行います。テーマに応じて体験学習に取り組みます。		太田光洋編「シードブック 子育て支援演習」(建帛社)	なし	子育て家庭支援に関わる科目のうち、演習を多く含みます。積極的に参加してください。				
成績評価方法								オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準			水曜日3時限			なし	
レポート	40	内容と提出状況							
授業時の課題提出	40	内容と提出状況							
演習への取り組み	20	主体性、積極性、協調性			受講前に学習すること				
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
14	いのちと環境	2	30	選択 (保選)	演習	2年	前期	米窪 洋介	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		子どもの成長及び発達における自然環境の意味について理解する。また、自然とかかわる力を育てる保育実践力を学ぶとともに、「信州やまほいく」について理解する。							
到達目標		1) 子どもの成長・発達における自然環境の意義について、説明できる。 2) 子どもと自然とのかかわりを想定した保育実践力を身につけ、実行できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。			シラバスを確認しておく。			
	2	子どもの育ちと環境	環境とのかかわりを通した、子どもの成長について学ぶ。			前回の授業の振り返りと指示された課題に取り組む。			
	3	保育環境	様々な園の実態を把握し、保育環境の違いを理解する。						
	4	「いのち」とは?	身のまわりの生命について考える。						
	5	「信州やまほいく」について	信州の豊かな自然に根ざした保育について学ぶ。						
	6	自然との関わり①	保育における「土」との関わりについて学ぶ。						
	7	自然との関わり②	保育における「水」との関わりについて学ぶ。						
	8	自然との関わり③	保育における「空・天気」との関わりについて学ぶ。						
	9	自然との関わり④	保育における「つくる」との関わりについて学ぶ。						
	10	自然との関わり⑤	保育における「火」との関わりについて学ぶ。						
	11	自然との関わり⑥	保育における「食」との関わりについて学ぶ。						
	12	自然との関わり⑦	保育における「植物・生物」との関わりについて学ぶ。						
	13	野外保育活動①	「人・地域」①身近な山について、現状を理解する。						
	14	野外保育活動②	「人・地域」②山の役割や今後のあり方について学ぶ。						
	15	野外保育活動③	「人・地域」③森林伐採について学ぶ。						
16	定期試験	筆記試験			これまでの復習をする				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	講義を聞いてのディスカッションや学内外での体験学習を取り入れます。		なし		なし		身のまわりの自然について理解を深め、保育の中に活かせる力を身につけましょう。		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
定期試験		50	筆記試験						
グループワーク		30	各活動における参加状況						
レポート		20	指示された課題への取り組み			受講前に学習すること			
					なし				

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
15	保育・教育相談	2	30	選択 (必修・保選)	講義	2年	後期	内藤 美智子
実務経験と授業科目との関連性		病院・児童相談所等での心理臨床活動経験を踏まえ、保育・教育相談の意義と基礎的理論およびカウンセリング技法について講義を行う。						
講義目的		保育・教育相談の意義・基礎的理論を学び、ロールプレイなどを通してカウンセリング技法を身につける。さらに子どもの不適応・問題行動の事例をとりあげ保育場面での展開を考える。						
到達目標		1.子どもの心理的特質や教育的課題について理解している。 2.カウンセリングの理論・基本的な技法を身につける。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	保育・教育場面における現代的課題	子ども・子育て環境の変化から生じた保育・幼児教育に関わる課題を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	2	保育・教育相談の意義	保育・教育場面におけるさまざまな課題を理解し、保育・教育相談の目的・意義を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	3	保育者に求められるカウンセリングマインド	保育者に求められるカウンセリングマインドとは何か、またその必要性について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	4	カウンセリングに関わる基礎的な理論	保育・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	5	カウンセリングにおける3つの条件	カウンセリングの基礎理論を学び、3つの基本的条件を理解する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	6	コミュニケーションの基礎 ① 話す・きく	コミュニケーションの基礎となる話す力・きく力の重要性について学び、ロールプレイを通して高める。			カードゲームのためのカードを作成する。		
	7	コミュニケーションの基礎 ② みる	ノンバーバル・コミュニケーションの重要性を理解し、みる力を高める。			身体が発するサインをリストアップする。		
	8	傾聴とは	カウンセリングにおける傾聴と助言、さまざまな技法についてロールプレイを通して体験的に学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	9	受容と共感	カウンセリングにおける基本的姿勢と技法について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	10	保育・教育相談の進め方	子どもや保護者に対する相談を行う際の目標の立て方や進め方を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	11	子どもの不適応・問題行動の捉え方	子どもの不適応・問題行動の意味、子どもの発するシグナルに気づく方法について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	12	子どもに対する支援の実際 (事例をよむ)	子どもの発達段階や発達課題に応じた相談の進め方を事例を通して学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	13	保護者に対する支援の実際 (事例をよむ)	保護者が抱えるさまざまな問題、親子関係から生ずる子どもの問題について事例を通して学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	14	保育者の連携・チームワークによる支援体制	相談計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取りくみの必要性を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	15	地域の専門機関との連携	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	16	定期試験	筆記試験			指示された試験範囲について準備する。		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	1.テキスト・プリントを用いた講義 2.ロールプレイ等による体験的学習、主題に応じてグループワークと発表を取り入れる		大竹直子著「やさしく学べる保育カウンセリング」(金子書房)		なし		ケアスペシャリストとしての力を高めるため、カウンセリングの基礎技法を身につけましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
定期試験		80	筆記試験の記述内容			受講前に学習すること		
課題に応じたレポート		20	指示された課題へのとりくみと内容					
					実習などで出会った子どものつまずきに関する事例について振り返ってみる。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
16	子どもの音楽Ⅱ	1	15	選択 (保選)	演習	2年	前期	山田 真治
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。						
講義目的		保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するために、打楽器奏法、歌唱、アンサンブル、創作等の技術を修得する。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方、教材の作成を通し、より良い環境について理解する。						
到達目標		保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するためにリズム楽器を用い、ピアノを中心としたアンサンブル演奏ができる。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方や、教材の制作を通し、より良い音楽環境を作ることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	楽曲の選出	現場で使用されているアンサンブルに相応しい楽曲を選出する			シラバスよく見ておく		
	2	リズムの考案	リズム楽器の特性を考慮し楽曲に相応しいリズムを考案する			楽器の特性の復習		
	3	アンサンブル(1)	ピアノとリズム楽器のアンサンブルをする			担当楽器のリズム練習		
	4	アンサンブル(2)	楽曲を替え、ピアノとリズム楽器のアンサンブルをする			担当楽器のリズム練習		
	5	アンサンブル(3)	リズム楽器を替え、ピアノとリズム楽器のアンサンブルをする			担当楽器のリズム練習		
	6	アンサンブル(4)	音のバランスに考慮した練習を行う			担当楽器のリズム練習		
	7	アンサンブル指導法	アンサンブル教材の選び方を学ぶ			アンサンブルの難点確認		
	8	演奏発表	グループ毎の演奏発表を行う			発表の準備		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
5	小グループによるアンサンブルを体験し、リズム感を学んでいく。一つの楽器だけでなくできるだけ多くの楽器に触れながら楽器の特性を学んでいく。		「保育のピアノ伴奏」阿部直美監修(日本文芸社)、「実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)		「幼児の歌110曲集」(ATM出版)		小グループのアンサンブル形式で授業が展開されますので欠席しないようにして下さい。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
演奏発表		80						
毎回の授業の課題進捗状況		20						
					受講前に学習すること			
					保育で使用されるリズム楽器にはどのようなものがあるか、確認しておいて下さい。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
17	子どもと絵本	1	15	選択 (保選)	演習	2年	前期	生田 恵津子

実務経験と授業科目との関連性

講義目的 将来、子どもと文学をつなぐ仕事に就くことを意識しながら、優れた「絵本」とは何か、また、どのように子ども達に渡していくかを学ぶ。

到達目標 1) 子どもの発達に合わせた絵本の選び方を学び実践に生かすことができる。  
2) 絵本ができていく過程を知り、作者や編集者が子ども達に伝えたい思いを考えたり、読み方与え方について説明できる。

教育 内容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員	
	1	子どもにとって絵本とは	絵本とはどういうものかを考え、優れた絵本の選び方を学ぶ	絵本とは何かを考えてくる	
	2	絵本の入り口	ブックスタート事業・セカンドブック業・サードブック事業などを調べ、絵本によって育まれるものを学ぶ	読書啓発事業について調べてくる	
	3	子どもの発達と絵本① 0, 1歳児	0, 1歳児の発達に応じた絵本について学ぶ	対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する	
	4	子どもの発達と絵本② 2歳児	2歳児の発達に応じた絵本について学ぶ	対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する	
	5	子どもの発達と絵本③ 3歳児	3歳児の発達に応じた絵本について学ぶ	対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する	
	6	子どもの発達と絵本④ 4歳児	4歳児の発達に応じた絵本について学ぶ	対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する	
	7	子どもの発達と絵本⑤ 5歳児	5歳児の発達に応じた絵本について学ぶ	対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する	
	8	ビブリオバトル	人を通して本を知る、本を通して人を知る	3分で1冊を語れるように練習して臨む	
9					

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
5	講義のほか・グループ討議・読み聞かせプログラムの実践などを行う。	新版「保育と絵本－発達の道すじにそった絵本の選び方」瀧薫(エイデル研究所)	なし	1冊でも多くの絵本を読んでください

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
受講状況	50	積極的発言		
ポートフォリオ提出	50	記述内容		
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
18	ことばと表現	1	15	選択 (保選)	演習	2年	前期	豊嶋 さおり
実務経験と授業科目との関連性		おはなしの会主宰20年の活動経験と、絵本専門士・JPIC読書アドバイザー・認定こども園絵本講師としての講師経験を活かし、実践的な授業を展開する。						
講義目的		子どものことばの発達と豊かな表現力の育成のため、特に児童文化財についての理解を深めるとともに、演習を通して保育現場ですぐに役立つ知識と技能を習得する。また、表現の多様性を理解し、子どもの発達段階に応じた援助方法について学ぶ。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育において、子どもの発達段階とねらいに応じた様々な児童文化財の活用ができる。</li> <li>・子どものことばと表現を豊かに育てる保育者としての表現力、援助方法を習得し、実践できる。</li> </ul>						
教育 内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	言語表現と非言語表現 児童文化と表現	乳幼児期のことばの発達と非言語コミュニケーション、また、児童文化財が子どものことばと表現に及ぼす影響について確認する			事前：ことばの発達・児童文化について予習		
	2	子どもの発達とあそびうた わらべうたの実際 (0歳～)	手あそび、わらべうた、それぞれについて理解した上で、0歳児期からのわらべうたを体験しながら学ぶ			事前：わらべうたについて調べる		
	3	わらべうたと身体表現 (1.2歳) 集団あそび (3歳～)	発達段階に応じたわらべうたの理解 1.2歳児期、3歳以上児期のわらべうたを体験しながら学ぶ			事前：知っているわらべうたをあげておく		
	4	絵本と表現 劇あそびへの発展	絵本についての理解を深め、発達段階に応じた集団への絵本の読み聞かせや、あそび・劇あそびへの発展についての事例を知る			事後：絵本についての課題レポート提出		
	5	紙芝居と表現	紙芝居の世界と表現の理解 紙芝居の演じ方を体験しながら身につける			事前：紙芝居について調べる		
	6	視覚教材と表現 ペープサートの活用	ペープサートについて理解し、製作を体験する			事前：ペープサートについて調べる、製作のための持参物の確認		
	7	パネルシアターの活用と 製作①	パネルシアターについて理解し、グループで製作を体験する			事前：パネルシアターについて調べる、製作のための持参物の確認		
	8	パネルシアターの活用と 製作②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルシアターの演じ方を再確認し、グループ発表を行う</li> <li>・ブラックパネルシアターの実演を鑑賞・体感する</li> </ul>			事前：製作課題を仕上げ、発表準備をしておく		
	9	定期試験	保育現場を想定した児童文化財活用の実演発表と発表内容記述試験			事前：実演発表試験準備		
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
5	さまざまな児童文化財の活用について、毎回のプリント資料、実演、実技、視覚教材の製作や発表などを通して体験的に学ぶ		「読み聞かせで発達支援～絵本でひらく心とことば」(かもがわ出版)	「保育所保育指針解説」ほか、適宜紹介する	実演、実技、製作・発表を交えながら学びます。保育現場ですぐに役立つ児童文化財の活用方法・実践力を身につけましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			授業終了後	なし		
定期試験	45	実演発表・発表内容の記述試験						
受講態度	10	授業における意欲・態度			受講前に学習すること			
受講カード(数回)・課題レポート(1回) ※受講カードは授業時間内に提出	35	記述内容：主題の理解がされているか						
製作・グループ発表	10	意欲・成果、発表内容			絵本とその周辺の児童文化に関心をもって受講してください			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
19	生涯スポーツⅡ	1	15	選択 (保選)	演習	2年	後期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、各種目の特性の知識、安全に楽しむ資質や能力をいくつかの種目の演習により習得する。						
講義目的		フットサルやスノースポーツを安全に楽しく行う能力を身に付け、生涯にわたってスポーツを楽しむ資質や能力を育成する。						
到達目標		1) ゴール型球技としてのフットサルの特性やルールを理解し、楽しく追究するために必要な教材化について考えることができる 2) スノースポーツ(スキー・スノーボード)の特性を理解し、安全に行うことができる						

		本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
教 育 内 容	1	フットサルの特性やルールの理解1	フットサルの特性について理解する	シラバスを読む	
	2	フットサルの特性やルールの理解2	フットサルの特性やルールについて理解する	基礎的スキルについて調べておく	
	3	フットサルの基礎的スキルの理解	ドリブル、パス、シュートなどに必要なスキルについて理解する	基礎的スキルについて調べておく	
	4				
	5				
	6	スノースポーツ学習	・グループ毎に基礎技術や応用技術を学習する  ・そり遊びなどを含めた雪上活動時の安全対策のポイントの確認し、理解する	実施計画を読み、準備品について確認しておく	
	7				
	8				
	9				

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
5	チーム・グループを適宜編成し、自己評価カードを用いて運動の理解度を確認する	なし 適宜資料を配布する	なし	ケガをしないように取り組みましょう

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
運動の理解	50	自己評価カード		
運動の技能	50	自己評価カード		
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
20	子どもと造形表現論	2	30	選択 (保選)	講義	2年	後期	米窪 洋介	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		1) 特性や発達段階と造形表現の相関について学ぶ。 2) 表現の多様性を理解し、文化的側面から子どもの造形表現について学ぶ。							
到達目標		1) 特性や発達段階と造形表現の相関を説明できる。 2) 表現の多様性を理解し、文化的側面から子どもの造形表現を考えることができる。							
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	導入	本授業の進め方と到達目的を確認する。			シラバスを確認しておく。			
	2	発達段階と表現概論	発達段階に応じた表現様式の変遷のアウトラインを把握する。			振り返りをレポートにまとめる。			
	3	発達と表現 ①絵の具あそび	絵の具の特性と性質を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	4	発達と表現 ②絵の具あそび	絵の具あそびを通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	5	発達と表現 ③絵の具あそび	絵の具あそびを通した子どもの表現を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	6	発達と表現 色鉛筆あそび	色鉛筆あそびを通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	7	発達と表現 クレヨンあそび	クレヨンあそびを通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	8	発達と表現 粘土あそび	粘土あそびを通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	9	発達と表現 ローラーあそび	ローラーあそびを通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	10	発達と表現 ①段ボール工作	段ボールにおける子どものあそびを学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	11	発達と表現 ②段ボール工作	段ボール工作を通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	12	発達と表現 絵画制作	絵画制作を通した子どもの発達を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	13	教材研究	発達に応じた教材選びについて学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。			
	14	指導案について	造形活動における指導案の書き方を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。			
	15	展示・鑑賞について	子どもの作品の展示・鑑賞の方法を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。			
	16	定期試験	筆記試験を行う。			定期試験の準備をする			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
5	アクティブラーニングを取り入れながら講義を進める。		佐善圭「造形のじかん」(愛智出版)		汐見稔幸他監修「平成30年施行」保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		子どもの造形表現について知識を深め、子ども理解に繋がります。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし	
定期試験		50	筆記試験の得点			受講前に学習すること			
課題		50	各課題の振り返りの内容						
						なし			

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
21	幼児保育特講	2	30	選択 (保選)	演習	2年	前期	山田 真治

実務経験と授業科目との関連性	
講義目的	保育者として実践に役立つ知識・技術を習得する。
到達目標	1) 保育の知識・技術を仲間へ伝えあい、応用することができる。 2) 保育実践に伴う協働作業へ積極的に取り組むことができる。 3) 実践の場で、保育者の立場を意識しながら子どもや保育者に関わることができる。

教 育 内 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の目的、学習方法、内容などについて確認する。	シラバスを読む。 授業の復習をする。	
	2	保育音楽の理解	保育者として子どもの声、音感、リズムの発達を理解し、音楽での寄り添い方を理解する。	事前学修は、教員が指定する事前課題に取り組む。 事後学修は、授業の復習を行う。	
	3	読譜トレーニング	グループに分かれて高音部譜表の読譜練習をする。		
	4	リズムトレーニング	グループに分かれて低音部譜表の読譜練習をする。		
	5	保育で使われる生活の歌①	保育で使われる生活の歌をグループに分かれ集める。		
	6	保育で使われる生活の歌②	グループに分かれ保育で使われる生活の歌を互いに歌い合う。		
	7	保育で使われる生活の歌③	グループに分かれ保育で使われる生活の歌を創作する。		
	8	親子・保育者で歌える行事の歌①	お誕生会の歌・子どもの日の歌をグループに分かれて互いに歌い合う。		
	9	親子・保育者で歌える行事の歌②	入園式・卒園式の歌をグループに分かれて互いに歌い合う。		
	10	親子・保育者で歌える行事の歌③	たなばた・クリスマス・ひな祭りの歌をグループに分かれて互いに歌い合う。		
	11	保育で使われる季節の歌①	春(3・4・5月) 夏(6・7・8月)の歌をグループに分かれて互いに歌い合う。		
	12	保育で使われる季節の歌②	秋(9・10・11)冬(12・1・2月)の歌をグループに分かれて季節の歌を互いに歌い合う。		
	13	保育で使われる季節外の歌③	模擬保育を想定し、保育士、園児に分かれ、季節外の歌を互いに歌い合う。		
	14	ピアノ弾き歌い①	保育場面を想定し、ピアノの弾き歌い発表をする。		
	15	ピアノ弾き歌い②	保育場面を想定し、ピアノの弾き歌い発表をする。		
16					

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
8	ピアノ弾き歌いと読譜、リズムトレーニングを組み合わせて演奏力を高める。グループでの歌唱活動を積極的に行うことにより、保育者としての指導力を身に付ける。課題を録音し、到達レベルを確認する。	音楽表現の基礎(ムジカ出版)、実習現場で使用された子どもの歌(学術文芸出版)、保育のピアノ伴奏法(日本文芸社)	なし	毎回の課題を1週間かけて勉強してきて下さい。レベルアップは間違いありません。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	水曜日3時限	なし
弾き歌い発表	50	表現力		
演習への取り組み	50	課題の完成度、主体性	受講前に学習すること	
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
22	教育実習指導	1	30	選択 (免必)	演習	1年 2年	後期 前期	山藤 宏子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		教育実習に入る事前学習として、基本的知識と保育技術を学ぶ。事後学習で実習をより有意義な体験に高め、今日における幼児教育の課題や幼稚園教諭・保育教諭としての自己の適性、将来の目標として考える機会となるようにする。						
到達目標		幼稚園等の機能や役割、幼児教育の基本について説明できる。子どもの発達過程や興味・関心に合わせた指導計画を立案できる。実習の省察を通して自己課題を明確にし、幼稚園教諭等としての倫理観、使命感について説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	教育実習の意義と目的、計画、手続きについて理解する（各種書類等確認）			実習要領の確認		
	2	オリエンテーションについて	自己課題の設定とオリエンテーションの内容確認			自己課題の整理		
	3	実習記録について	実習記録による省察の意義と記述法の指導			実習記録の事前記入		
	4	子ども理解と保育方法	責任実習の基本の確認			遊びの研究と主活動の選定		
	5	指導計画の作成	課題活動の指導案を作成する			指導案作成		
	6	教育実習(1年次)の事後指導①	自己評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	7	教育実習(1年次)の事後指導②	自己評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	8	指導計画の作成①	課題活動の指導案を作成する			指導案作成		
	9	指導計画の作成②	課題活動の指導案を作成する			指導案作成		
	10	指導計画の作成・教材準備	課題活動の指導案を作成する			保育教材の研究と指導案提出		
	11	模擬保育①	模擬保育を行い課題を明確にする			模擬保育の準備		
	12	模擬保育②	模擬保育を行い課題を明確にする			模擬保育の準備		
	13	教育実習(2年次)の事後指導①	グループ討議を通して実習からの学びを明確にする			報告会の準備		
	14	教育実習(2年次)の事後指導②	実習報告会			報告会の準備		
	15	教育実習(2年次)の事後指導③	まとめと今後の目標の設定			これまでの要点整理		
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	講義、グループ討議、個別ワーク 1年次に第1～7回、2年次に第8～15回の授業を行います。		百瀬ユカリ編「よくわかる幼稚園実習」 (創成社)		授業内で適宜連絡する		事前・事後学修を通して実習での学びを深めましょう。	
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限	なし	
事前準備		30	事前準備の充実度					
事後報告		30	報告内容の充実度			受講前に学習すること		
提出物		40	指導案、レポートの充実度					
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員		
23	教育実習	4	180	選択 (免必)	実習	1年 2年	後期 通年	内藤 鈴木 松澤	生田 白金 米窪	山田(真) 山藤 山田(裕)

実務経験と授業科目との関連性	
講義目的	幼児や幼稚園について理解を深め、具体的な経験を通して幼児教育の内容・方法や保育者に求められる資質や専門性について学習する。
到達目標	幼稚園・認定こども園の機能、保育者の役割、保育者の資質や専門性について説明できる。観察・責任実習等の具体的な活動を通して、幼児教育の内容・方法について理解できる。

教 育 内 容	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
	<p>1. 2年次での実習課題を明確にし、実習課題に取り組む。</p> <p>2. 実習記録の書き方や実習計画の立て方について理解し、実践する。</p> <p>3. 観察及び参加実習に加え、責任実習（部分実習、全日実習）に取り組む。</p> <p>4. 実習生としての自覚や責任感を持って実習に取り組む。</p> <p>5. 実習後の振り返りを通して、今後の学習課題を明確にする。</p> <p>*上記について、文部科学省基準に基づき、幼稚園・認定こども園（幼保連携型又は幼稚園型）において10日間の実習を行う。</p>			

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
3	幼稚園、幼保連携型又は幼稚園型認定こども園における観察および実践	なし	なし	1年次の実習で明確となった課題を確認し、2年次の実習に臨んでください。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	各教員のオフィスアワーを確認すること	実習指導科目の別規定に拠る
実習状況	50	実習自己課題・実習日誌		
実習園の評価	50	実習園からの評価	受講前に学習すること	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員																
24	保育実習指導 I	2	60	選択 (保必)	演習	1年 2年	後期 前期	生田恵津子・松澤高志																
実務経験と授業科目との関連性	各担当が下記の経験を踏まえ、保育実践の展開に必要な事項全般について指導を行う。 【生田：保育現場経験、松澤：障害者支援施設等勤務経験】																							
講義目的	保育実習 I に係わる諸手続き（事務内容・実習先との連絡調整など）のほか、主体的に保育実践を展開するために必要な準備全般を理解する。																							
到達目標	<table border="1"> <tr> <td>保育所</td> <td colspan="7">保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について知る。</td> </tr> <tr> <td>施設</td> <td colspan="7">施設の生活に参加し、子ども、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能と役割について学ぶ。</td> </tr> </table>								保育所	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について知る。							施設	施設の生活に参加し、子ども、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能と役割について学ぶ。						
保育所	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について知る。																							
施設	施設の生活に参加し、子ども、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能と役割について学ぶ。																							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要				事前・事後学修		担当教員															
	1	ガイダンス	学生生活ガイド・実習実施要項を通して保育実習 1 の全体像を理解する。				なし		生田															
	2	保育所とは	保育所の機能と役割を理解し、保育士の役割を学ぶ。				なし		生田															
	3	実習先を決める	依頼の仕方を学び、実習先を自ら確保する。				なし		生田															
	4	実習の概要	保育実習 I のねらいと内容を理解する。				テキスト予習		生田															
	5	実習記録	実習記録の内容を理解し、記入方法を学ぶ。				なし		生田															
	6	オリエンテーション依頼	オリエンテーションの意味を理解し、依頼する。				なし		生田															
	7	記録記入	オリエンテーションで聞き取ったことを記録する。				なし		生田															
	8	子ども理解と保育方法	発達の違いと保育方法の違いを理解する。				なし		生田															
	9	課題と学びの計画	自己課題を明確にし、2週間の学びの計画を立てる。				なし		生田															
	10	指導案作成	集団遊びの指導案を立てる。				指導案を考えてくること		生田															
	11	指導案作成	制作の指導案を立てる。				指導案を考えてくること		生田															
	12	具体的準備①	自己紹介・手あそび・絵本・歌などを準備する。				なし		生田															
	13	具体的準備②	腸内細菌検査など、事務的な準備の確認をする。				なし		生田															
	14	事後指導①	チェックリストに沿って実習の自己評価をする。				なし		生田															
	15	事後指導②	実習報告書に沿って、実習報告を行う。				なし		生田															
16	施設実習の意義と目的	施設実習の目的と履修方法、社会福祉施設で実習を行う意義について理解する。				テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。		松澤																

教 育 内 容	17	施設の種類と概要① (グループ作業)	社会福祉施設の種類の種類について講義した後、その概要や取り組みについて調べ学習を行う。	テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。	松澤
	18	施設の種類と概要② (グループ発表)	社会福祉施設の概要について講義した後、グループでまとめたものを発表し理解を深める。	テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。	松澤
	19	障害理解と入所児童の心情理解	障害児・者支援施設(通所・入所)の概要と障害特性について理解する。また、社会的養護の下で生活する子どもの心情を理解する。	テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。	松澤
	20	施設の1日の流れと実習内容の理解①	生活施設の事例から、施設生活の流れと実習内容について理解する。	テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。	松澤
	21	施設の1日の流れと実習内容の理解②	生活施設の事例から、記録の仕方についてグループ話し合い発表する。	テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。	松澤
	22	施設実習に向けての心得	施設実習に向けた心構えと、子ども・利用者を尊重した関わり、守秘義務について理解する。	配付資料を読み込むこと。	松澤
	23	実習先施設の選定	長野県保育士養成協議会の協議より分配された本学割り当て先から、実習先を選定する。	希望先を決めてくること。	松澤
	24	実習準備①(実習先との連絡調整)	オリエンテーションの内容、確認事項等について理解する。実習施設に連絡をおこなう。	実習先への確認事項等を整理しておくこと。	松澤
	25	実習準備②(実習記録・様式の確認)	実習課題や目標等の確認を行った後、事前学習の内容等の点検を行う。	実習記録の記載内容について確認すること。	松澤
	26	実習課題の設定①	実習課題や目標等を設定し、その達成方法についての確認を行う。	実習課題を考えてくること。	松澤
	27	実習課題の設定②	実習課題や目標等の確認を行った後、事前学習の内容等の点検を行う。	教員の指示に従い各事項を修正してくること。	松澤
	28	事前指導のまとめ	巡回指導用地図や施設概要、実習に関わる必要な書類等について作成と確認を行う。	報告書を作成してくること。	松澤
	29	[事後指導]実習の総括と課題の明確化①	実習を振り返り子ども・利用者への支援についてグループで検討する。	実習反省記録を記入してくること。	松澤
	30	[事後指導]実習の総括と課題の明確化②	実習の総括及び自己評価を行い、今後の課題を明確にする。	実習反省記録を完成させてくること。	松澤
31					

D P		学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
3	保育所	テキストや配布資料をもとにグループ討議もまじえ、演習形式で行う。	「よくわかる保育所実習」百瀬ユカリ(創成社)	教育・保育実習要項	実習は、現場でしか体験できない生きた学びです。真摯に向き合う姿勢で臨んでください。
	施設	テキストや参考資料、配布資料を基に演習形式で展開する。	「保育福祉小六法」保育福祉小六法編集委員会(みらい)「施設実習パーフェクトガイド」守巧他(わかば社)	教育・保育実習要項	施設の保育士における専門性は何かを常に考えつつ、積極的に取り組みましょう。
成績評価方法				オフィスアワー	履修条件
評価項目		配分(%)	評価基準	生田：水曜日3時限 松澤：水曜日3時限	なし
保育所	事前準備	20	遅れた場合は減点とします。	受講前に学習すること	
	提出物	15			
	受講状況	15			
施設	事前準備	20	なし		
	提出物	15			
	受講状況	15			

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
25	保育実習 I	4	180	選択 (保必)	実習	1年 2年	後期 通年	内藤 鈴木 松澤 生田 白金 米窪 山田(真) 山藤 山田(裕)
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的	既習科目での知識・技術を基礎に、保育所実習では乳幼児との日常を体験しながら保育所の役割や機能、そこでの保育士の業務の実際を知る。施設実習では施設の概要を把握し、施設の実態を理解する。さらに、利用者や施設の意義などを学ぶことができる。							
到達目標	1) 保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2) 子ども(利用者)との関わり、子育て支援の実際を理解する。 3) 保育の計画・実践・記録および自己評価を通して、保育士の業務内容や職業倫理を説明できる。							
教育内容	本日の主題	授業概要					事前・事後学修	担当教員
	<p>〈保育所実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育所の機能と役割を学ぶ</li> <li>2) 子どもの理解について学ぶ</li> <li>3) 保育内容・保育環境を学ぶ</li> <li>4) 保育の計画について知り、観察し記録する</li> <li>5) 自己評価を通して次の実習への自己課題に気づく</li> </ol> <p>〈施設実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設の機能と役割を学ぶ</li> <li>2) 子ども・利用者の理解について学ぶ</li> <li>3) 計画に基づいた活動や援助について学ぶ</li> <li>4) 専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ</li> <li>5) 記録に基づく省察と自己評価をする</li> </ol> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・幼保連携型認定こども園、および指定された施設において概ね11日間の実習を行う。</p>							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	保育所	観察実習・部分実習	なし		「よくわかる保育所実習」百瀬ユカリ(創成社) 「教育・保育実習要項」		実習は机上の学びの何倍もの学びが得られます。真摯に取り組んでください。	
	施設	児童福祉施設等での実践	なし		「施設実習パーフェクトガイド」守巧他(わかば社)、「保育福祉小六法」保育福祉小六法編集委員会(みらい)、「教育・保育実習要項」		実習を通して、保育士に求められる力量が高まっていくことを期待しています	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		1年次夏季休暇中に保育士体験を二日以上しておく	
実習状況		50	実習自己課題・実習日誌					
実習先評価		50			受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
26	保育実習指導Ⅱ	1	15	選択 (保選必)	演習	2年	通年	生田 恵津子
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験を踏まえ、保育実践の展開に必要な事項全般について指導を行う						
講義目的		保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、既修得科目で得た知見や実習経験を生かし、指導計画の立案、実践ができるようになるとともに、自己の課題を明確化できる。						
到達目標		1) 既修得科目やこれまでの教育・保育実習、園交流などでの学びを基に指導計画が立案できる 2) 実践を可能とする保育の知識・技術を身につける 3) 保育の今日的課題に目を向け説明できる						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	自身のキャリア選択を視野に科目について考える			なし		
	2	実習先確保	保育実習申込書を作成し、提出する			なし		
	3	オリエンテーションの依頼と内容	オリエンテーションの内容を理解し、依頼する			なし		
	4	子どもの発達と保育	年齢ごとの発達を踏まえた保育の内容と展開を復習する			年齢別の発達を復習してくる		
	5	指導計画作成 集団遊び	担当年齢に合わせた主活動の指導計画を立てる			年齢別の発達を復習してくる		
	6	指導計画作成 制作活動	担当年齢に合わせた主活動の指導計画を立てる			年齢別の発達を復習してくる		
	7	実習報告会①	実習報告①を通して、自己の課題を明確にする			実習報告書①を記入してくる		
	8	実習報告会②	実習報告②を通して、自己の課題を明確にする			なし		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	テキスト・配布資料をもとに演習形式で、より実践的な学びを展開する		「よくわかる保育実習」 百瀬ユカリ (創成社)		なし		自身のキャリア選択を しっかり考えて臨んでく ださい。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
実習事前準備		40	講義への参加状況			受講前に学習すること		
各種提出物		30	期限遅延は減点対象					
実習事後報告		30	学びの内容を評価			保育実習Ⅰでの課題を明確にしておく		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
27	保育実習Ⅱ	2	90	選択 (保選必)	実習	2年	通年	内藤 生田 山田(真) 鈴木 白金 山藤 松澤 米窪 山田(裕)
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		1) 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める 2) 子どもの観察や関わりを明確にすることを通して、保育の理解を深める 3) 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する			4) 保育の計画・実践・観察・記録および自己評価などに実際に取り組み、理解を深める 5) 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践と結びつけて理解する 6) 実習における自己の課題を明確にする			
到達目標		1) これまでの学びの上に、実際の場面を通して、子どもの姿の捉え方、子ども理解について学び、適切な子どものかかわりや援助の仕方を身につける。 2) 保育の計画・実践・記録・省察の中から、自己評価に基づく自己の課題を説明できる。						
本日の主題		授業概要				事前・事後学修		担当教員
教 育 内 容	<p>1、保育所の役割や機能を具体的に学ぶ  (1) 養護と教育が一体的に展開される保育の実際を学ぶ  (2) 保育所の社会的役割と責任を知る</p> <p>2、観察に基づいた保育の理解を学ぶ  (1) 子どもの心身の状態や活動の観察をする  (2) 保育士等の援助や関わりを学ぶ  (3) 保育所の生活の流れや、展開を把握する</p> <p>3、子どもの保育及び保護者支援、地域との連携を知る  (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に展開される保育の実際を学ぶ  (2) 保護者に対する子育て支援や地域とのかかわりの様子を観察する</p> <p>4、指導計画の立案・実践・観察・記録・評価について学ぶ  (1) 全体的な計画に基づく指導計画の実際を知る  (2) 作成した指導計画に基づく保育実践とその評価をする</p> <p>5、保育士の業務と職業倫理について理解する  (1) 多様化する保育ニーズについて知り、保育士の業務を知る  (2) 多様な保育の展開と、求められる保育士の職業倫理について理解する</p> <p>6、自己課題を明確化する</p> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・認定こども園（幼保連携型又は保育所型）において11日間の実習を行う。</p>							
	DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
3	部分実習・全日実習	なし	「よくわかる保育実習」 百瀬ユカリ(創成社) 「教育・保育実習要項」	キャリア選択に向けて自己課題を明確にしてほしいと思います				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること	なし	
実習状況		50	実習自己課題への取り組み・実習日誌					
実習先の評価		50				受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
28	保育実習指導Ⅲ	1	15	選択 (保選必)	演習	2年	通年	松澤 高志
実務経験と授業科目との関連性		障害者支援施設等の勤務経験を踏まえ、保育実践の展開に必要な事項全般について指導を行う						
講義目的		保育実習Ⅲを行う意義等を理解し、実習に必要な準備を行う。加えて、既習教科での知見を活かして個別支援計画及び自立支援計画等の立案、展開方法を理解する。事後指導では、振り返りを通して施設保育士の専門性や職業倫理を理解するとともに、自身の課題等が明確にできるようになることが目的である。						
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。</li> <li>2. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</li> <li>3. 施設保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。</li> <li>4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する願望や認識を明確にする。</li> </ol>						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	保育実習Ⅲの目的① (実習先の選定を含む)	既習教科の内容を踏まえた実習の意義を理解する。また、実習希望施設への受け入れ調整を行う。			保育実習Ⅰを振り返り、課題等を整理しておく。		
	2	保育実習Ⅲの目的② (実習先の選定を含む)	既習教科の内容を踏まえた実習の意義を理解する。また、実習希望施設への受け入れ調整を行う。			保育実習Ⅰを振り返り、課題等を整理しておく。		
	3	実習の各段階と学習内容	保育実習Ⅲの実習初期・中期・後期における学習内容について学ぶ。			保育実習Ⅰの学習内容について復習する。		
	4	実習研究課題の設定	研究課題及び、各々の課題達成方法や事前学習の内容等を設定する。			実習研究課題の用紙を完成させてくる。		
	5	実習計画の作成	オリエンテーション等で得た情報等を基に、実習中に実践する行動計画を立案する。			実習目標と達成のための行動計画を準備すること。		
	6	実習に際しての留意事項	実習中の心構え他、守秘義務について理解する。			テキスト等の倫理綱領や行動指針等を読み込むこと。		
	7	実習直前指導	実習の手引きに沿いながら、重要事項の最終確認等を行う。			実習記録の記載箇所を点検をする。		
	8	[事後指導]実習の総括と課題の明確化	実習後の各取り組みの内容を整理して、総括として実習報告書を作成する。			実習反省記録を作成しておくこと。		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	テキストや配付資料、教育・保育実習要項などをもとに、演習形式で展開する。		[施設実習パーフェクトガイド]守巧他(わかば社) [保育福祉小六法]保育福祉小六法編集委員会編(みらい)		[教育・保育実習要項]		保育実習Ⅰ(施設)での経験・体験をいかしながら、高度な専門性が身に付けられるように取り組みましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
実習事後報告		40	各施設での実習内容について発表			受講前に学習すること		
事前準備状況		30	連絡状況や講義への参加状況等					
各種提出物		30	遅延等は大幅な減点対象とする。			なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
29	保育実習Ⅲ	2	90	選択 (保選必)	実習	2年	通年	内藤 生田 山田(真) 鈴木 白金 山藤 松澤 米窪 山田(裕)
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		既習科目や、保育士体験・保育実習Ⅰ・園交流などでの学びの上に子どもの姿の捉え方と、そこから始まる保育の計画、その実践を可能にする保育の知識、技術を学ぶ。また、保育の今日的課題に触れることで、自身の将来の目標などについて考える機会とする。						
到達目標		子ども(利用者)の状態に応じた適切な関わりや保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践などを理解している。また、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にできる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>1 養護全般に参加し、援助技術を修得する。  (1) 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を学ぶ。  2 子どもの個人差について理解し、対応方法を修得する。  (1) 子どもに共感し、受容する態度を修得する。  (2) 発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。  3 援助計画を立案し、実際に実践する。  (1) 援助計画を立案し、指導担当職員の手で実践する。  4 家族支援の内容を具体的に修得する。  (1) 保護者との関わりを通してコミュニケーションの方法を学ぶ。  5 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。  (1) 地域の子育て支援のニーズを理解し、施設の役割について学ぶ。  (2) 地域の社会資源との連携について理解する。  6 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。  (1) 子どもの権利擁護の実際について学ぶ。  (2) 保育士の援助の方法や対応から、その姿勢を学ぶ。  7 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。  (1) 守秘義務の遵守について、実際に理解する。  (2) 保育士の具体的な職業倫理について学ぶ。  8 児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせ自己の課題を明確化する。  (1) 施設保育士に必要な専門性について理解する。  (2) 実習を通して得た問題や課題を確認し、それらを実現させる具体的な方法について検討する。</p> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、指定された施設において概ね11日間の実習を行う。</p>							
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
3	社会福祉施設等での実践	なし 適宜、プリントや資料を配付する。	「教育・保育実習要項」 「施設実習パーフェクトガイド」 守巧他(わかば社)「保育福祉小六法」 保育福祉小六法編集委員会編(みらい)	実習を通して、保育士に求められる力量が高まっていくことを期待しています。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし	
実習先の評価	50	実習先からの評価						
実習前後の取り組み	50	実習前後の手続きや振り返りを含め評価						
					受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
30	保育・教職実践演習 (幼稚園)	2	30	必修	演習	2年	後期	内藤 山田(真) 鈴木 山藤 米窪 山田(裕)	
実務経験と授業科目との関連性	以下の教員は、それぞれの勤務・活動経験を踏まえ、実践的な授業を展開する。 【内藤・鈴木:心理臨床活動、山田(真):小・中学校教諭、山藤・山田(裕):保育職員】								
講義目的	保育・教職に関する学修内容を確認し、それを基に実践力を充実させるためにグループワークにより模擬授業等を行い学び合う。地域や幼稚園との連携を図り、学生の主体的な計画により保育の実践力を高める。								
到達目標	1) 保育に必要な専門知識及び技術、総合的な判断力、倫理観等の習得・形成の状況と、自己課題を説明できる。 2) 保育実践に求められる基礎的資質・能力を身につけている。								
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	Aクラス	オリエンテーション	授業のねらい及び内容について確認する。			これまでの実習日誌を読み直す	内藤 山藤 山田(裕)	
		Bクラス	オリエンテーション	授業のねらい及び内容について確認する。				山田(真) 鈴木 米窪	
	2	Aクラス	自己課題の発見	履修カルテ、実習日誌を振り返り、自己の課題を明確にする。				山田(真) 鈴木 米窪	
		Bクラス	自己課題の発見	履修カルテ、実習日誌を振り返り、自己の課題を明確にする。				内藤 山藤 山田(裕)	
	3	Aクラス	幼稚園での子どもの観察1	模擬保育に備え、子どもたちの遊びに注目した観察を行う。				山田(真) 山藤・米窪 山田(裕)	
		Bクラス	教育課程、保育課程についての確認	幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容を復習し、理解を深める。				鈴木 内藤	
	4	Aクラス	幼稚園での子どもの観察2	観察結果をまとめ、模擬保育で実施する活動内容を検討する。				内藤・山田(真) 山藤・米窪 山田(裕)	
		Bクラス	幼児の特性についての確認	幼児の心と身体の成長について復習し理解を深める。				内藤 鈴木	
	5	Aクラス	教育課程、保育課程についての確認	幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容を復習し、理解を深める。				鈴木 内藤	
		Bクラス	幼稚園での子どもの観察1	模擬保育に備え、子どもたちの遊びに注目した観察を行う。				山田(真) 山藤・米窪 山田(裕)	
	6	Aクラス	幼児の特性についての確認	幼児の心と身体の成長について復習し理解を深める。				内藤・鈴木	
		Bクラス	幼稚園での子どもの観察2	観察結果をまとめ、模擬保育で実施する活動内容を検討する。				山田(真) 山藤・米窪 山田(裕)	
	7	Aクラス	模擬保育の準備1	グループ分けをし、活動内容の選定及び指導案の作成を行う。				準備品を確認し、模擬保育に向けて準備を行う	山藤 山田(裕)
		Bクラス	模擬保育の準備1	グループ分けをし、活動内容の選定及び指導案の作成を行う。					鈴木 米窪
	8	Aクラス	模擬保育の準備2	グループごとに模擬保育に向けての役割分担を行う。					鈴木 米窪
Bクラス		模擬保育の準備2	グループごとに模擬保育に向けての役割分担を行う。			山藤 山田(裕)			

教育内容	9	Aクラス	模擬保育の準備3	グループごとに役割に沿って模擬保育の準備を行う。	準備品を確認し、 模擬保育に向けて準備を行う	山藤山田(裕)	
		Bクラス	模擬保育の準備3	グループごとに役割に沿って模擬保育の準備を行う。		鈴木米窪	
	10	Aクラス	模擬保育の準備4	グループごと、各自に分担された作業を進める。		鈴木米窪	
		Bクラス	模擬保育の準備4	グループごと、各自に分担された作業を進める。		山藤山田(裕)	
	11	Aクラス	模擬保育の準備5	グループごとに指導案と準備の確認を行う。		山藤山田(裕)	
		Bクラス	模擬保育の準備5	グループごとに指導案と準備の確認を行う。		鈴木米窪	
	12	Aクラス	模擬保育の準備6	グループごとに模擬保育に向けて準備を整える。		鈴木米窪	
		Bクラス	模擬保育の準備6	グループごとに模擬保育に向けて準備を整える。		山藤山田(裕)	
	13	Aクラス	模擬保育1	園児との交流を通し、保育者に求められる指導力について学ぶ。		内藤・山藤山田(裕)	
		Bクラス	模擬保育1	園児との交流を通し、保育者に求められる指導力について学ぶ。		山田(真) 鈴木・米窪	
	14	Aクラス	模擬保育2	園児との交流を通し、自己の指導力について考察する。		山田(真) 鈴木・米窪	
		Bクラス	模擬保育2	園児との交流を通し、自己の指導力について考察する。		内藤・山藤山田(裕)	
	15	Aクラス	まとめ	模擬保育の反省と2年間の学びの振り返りを行う。		履修カルテの確認を行う	内藤・山藤山田(裕)
		Bクラス	まとめ	模擬保育の反省と2年間の学びの振り返りを行う。			山田(真) 鈴木・米窪
	16						
	DP	学修方法				テキスト	参考書
3	授業テーマに応じて資料を配布する。指導計画に基づく模擬保育、グループワーク、ロールプレイ、園児との交流や実践に対する評価を行う。			なし	「実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)	実践的な学びを通じて、保育者として求められる資質・能力を理解し、習得しましょう。	
成績評価方法							
評価項目			配分(%)	評価基準		履修条件	
授業への参加状況			60	課題・体験学習等への取り組み		各教員のオフィスアワーを確認すること なし	
課題・レポート			40	提出状況と内容			
						受講前に学習すること	
						なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員		
31	応用ゼミナール	2	60	必修	演習	2年	通年	内藤 鈴木 松澤	生田 白金 米窪	山田(真) 山藤 山田(裕)
実務経験と授業科目との関連性										
講義目的		各ゼミごとに卒業研究テーマを選定し、問題を深く掘り下げ、解決する態度を養う。								
到達目標		1) 卒業研究テーマについて、課題を探求することができる。 2) 主体的・能動的に研究し、まとめ、発表することができる。								
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員		
	1	オリエンテーション①	卒業研究の進め方、内容について確認する。			各ゼミの課題に取り 組む		担当教員全員		
	2	オリエンテーション②	卒業研究のテーマを選定する。			同 上		同 上		
	3	卒業研究	担当教員の指示に基づき、卒業研究テーマに取り 組む。			同 上		同 上		
	4	同 上	同 上			同 上		同 上		
	5	同 上	同 上			同 上		同 上		
	6	同 上	同 上			同 上		同 上		
	7	同 上	同 上			同 上		同 上		
	8	同 上	同 上			同 上		同 上		
	9	同 上	同 上			同 上		同 上		
	10	同 上	同 上			同 上		同 上		
	11	同 上	同 上			同 上		同 上		
	12	同 上	同 上			同 上		同 上		
	13	同 上	同 上			同 上		同 上		
	14	同 上	同 上			同 上		同 上		
	15	同 上	同 上			同 上		同 上		
16	同 上	同 上			同 上		同 上			

教 育 内 容	17	卒業研究	担当教員の指示に基づき、卒業研究テーマに取り組む。	各ゼミの課題に取り組む	担当教員全員
	18	同上	同上	同上	同上
	19	同上	同上	同上	同上
	20	同上	同上	同上	同上
	21	同上	同上	同上	同上
	22	同上	同上	同上	同上
	23	同上	同上	同上	同上
	24	卒業研究発表会の準備①	卒業研究発表会に向けて、研究成果をまとめる。	同上	同上
	25	卒業研究発表会の準備②	卒業研究発表会の発表用の資料を作成する。	同上	同上
	26	卒業研究発表会の練習	卒業研究に備えて、プレゼンの練習をする。	同上	同上
	27	卒業研究発表会①	研究発表を行い、参加者からの質問に答える。	同上	同上
	28	卒業研究発表会②	各ゼミの卒業研究を聞き、研究成果を知る。	同上	同上
	29	卒業研究発表会③	それぞれのゼミの卒業研究を聞き、質問をする。	同上	同上
	30	卒業研究演習のまとめ	1年間の卒業研究演習を振り返り、まとめる。	同上	同上
31					
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ
8	各ゼミが設定したテーマについて、担当教員の指導を受けながら、主体的に進める。		各教員の指示による	各教員の指示による	2年間の学びの集大成として取り組みましょう。
成績評価方法				オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること	なし
各ゼミの総合評価	100	ゼミ活動への参加度、研究に取り組む姿勢、研究発表等、配分はゼミによって異なる			
				受講前に学習すること	
				基礎研究演習を振り返り、卒業研究テーマについて考えをまとめておく。	

## IV. 教員担当科目一覧

## 令和3年度 幼児保育学科 専任教員担当科目一覧

氏 名	担 当 科 目
内 藤 美智子	保育・教育の心理学 子ども家庭支援論の心理学 子どもの理解と援助 保育・教育相談 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
生 田 恵津子	保育原理 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 子どもと絵本 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
山 田 真 治	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと音楽表現 子どもと身体表現 子どもの音楽Ⅰ 子どもの音楽Ⅱ 幼児保育特講 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
鈴 木 美枝子	教育原理 保育者論 教育課程の編成と評価 幼児教育の方法 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
白 金 俊 二	健康と運動Ⅰ 健康と運動Ⅱ 保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと健康 子どもと運動遊び 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
山 藤 宏 子	こころの科学 保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係) 子どもと環境 子どもと人間関係 教育実習指導 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
松 澤 高 志	子ども家庭福祉 社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅲ 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
米 窪 洋 介	キャリア形成Ⅰ キャリア形成Ⅱ 地域交流実践 保育内容の指導法Ⅰ(健康・ 表現) 子どもと造形表現 いのちと環境 子どもと造形表現論 保育・教職実践演習(幼稚園) 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
山 田 裕 一	子ども家庭支援論 保育内容 総論 保育内容の指導法Ⅲ(言葉) 子育て支援 教育実習 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール

## 令和3年度 幼児保育学科 兼担講師担当科目一覧

氏 名	授 業 科 目
永 石 喜代子	子どもの保健・子どもの健康と安全
高 下 梓	情 報 処 理 演 習

## 令和3年度 幼児保育学科 兼任講師担当科目一覧

氏 名	授 業 科 目
飯 田 しのぶ	子 ど も の 音 楽 I
伊 東 和 広	暮 ら し の 中 の 数 学
金 枝 真佐尋	暮 ら し の 中 の 憲 法
鎌 倉 哲 子	子 ど も の 音 楽 I
亀 井 智 泉	生 命 倫 理
黒 澤 優 子	英 語 表 現
齊 藤 俊 子	子 ど も の 音 楽 I
高 倉 美 和	子 ど も の 音 楽 I
豊 嶋 さおり	こ と ば と 表 現
野 田 あゆ子	子 ど も の 音 楽 I
古 屋 顕 一	健 康 と 運 動 II
水 野 尚 子	子 ど も の 食 と 栄 養
宮 脇 千 史	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法
山 口 真 理	子 ど も の 音 楽 I
輪 湖 直 子	子 ど も の 音 楽 I

## 学校所在地

松本短期大学	〒399-0033 松本市笹賀3118	0263-58-4417
--------	------------------------	--------------

### 令和3年度 シラバス(履修ガイド) 幼児保育学科

発行 令和3年4月1日  
松本短期大学  
〒399-0033  
松本市笹賀3118  
電話 0263-58-4417

印刷所 アサカワ印刷株式会社  
〒399-0005  
松本市野溝木工1丁目6番34号  
電話 0263-25-5600